

3 年表で見る農業の動きと農業試験研究機関 の100年

備考

- ・ 1町 \doteq 1ha、1石 \doteq 1800
- ・ 米価：昭和39年まで1石あたり、昭和40年から60kgあたり

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1868 (明元)		○ 三岳の中川正平、震岳に2町の茶園を開く			○ いぐさ耕作の自由が許される		○ 桑苗が丹波、近江地方から移入される
1869 (明2)						○ 八代高田、宮地に温州ミカンの栽培広まる	○ 藩が養蚕奨励目的のために全県下に桑苗の無償配布
1870 (明3)							○ 安武奎次らが関東地方を見学後、養蚕の指導と蚕種、桑苗を配布
1871 (明4)		○ 小国郷に官立伝習所(官立茶業試験場)設置される					○ 桑実生苗の接木による桑苗育成法が考案される
1872 (明5)			○ 天草姫戸の石灰岩、肥料用に採石開始				○ 県営養蚕試験場が飽託郡大江村九品寺等9ヶ所に設置される
1873 (明6)			○ ドイツの動植物学教師ヒルゲンドルフが植物病理学にふれた講義を行う				○ 県が生糸の海外輸出を試みる
1874 (明7)							○ 河田精一により絹織物工場が設立される
1875 (明8)			○ 富田基平、地租改正に参画し、暗渠排水の研究の動機となる				○ 蚕種製造組合が県下8地域に設立
1876 (明9)	○ 苗種栽培所設置(主として稲作)	○ 政府が人吉に紅茶製造所を設け紅茶の製造と伝習を行う			○ 肥後い苧同業組合設立許可	○ 豊田景輝、八代宮地に夏橙栽培を奨励	○ 託麻郡九品寺村設置の養蚕試験所を民業に移す
1877 (明10)					○ 本県の蘭生産、備前等に次いで全国7番目 ○ 本県内は八代が圧倒的シェアを占める		
1878 (明11)		○ 政府、改めて人吉など3ヶ所に紅茶伝習所設置	○ 富田基平、束竹敷法暗渠排水に着手 ○ 鏡町で点火誘殺法、枯穂・心枯抜取りを実行				○ 県が託麻郡大江村に県営勸業場を建設
1879 (明12)	○ 水稲品種「神力」を移入					○ 天草郡高浜に甲州ブドウを栽培	○ 桑の萎縮病が県下各地に発生、県下全桑園の過半が被害を受ける
1880 (明13)	○ 合志郡の篤農家13人が泗水村に採種田10aを設け、水陸稲、大豆の種子更新に努める	○ 政府が山鹿など3ヶ所においてシナ風紅茶の試製伝習					
1881 (明14)	○ この頃、米質悪化、代金下落し農民難渋						
1882 (明15)	○ 内田真昭、横井時敬により籾種子塩水選法導入						○ 県が養蚕法の伝習を目的とする養蚕講習所を設立
1883 (明16)	○ 県招聘、老農船津伝次平が選種法・寒水浸法講話。種子交換の有利性を説く ○ 菊池郡改良米数千俵、大坂で高値 ○ 出水村で畜力利用もみすり臼を使用						○ 長野藩平が座繰生糸の海外輸出を計画

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
			1868	(明元)		○ 米価4円	
			1869	(明2)		○ 米価8円	
			1870	(明3)		○ 金沢番など「デアノ」肥効試験 ○ 米価5円	
			1871	(明4)	○ ジェーンズ来熊	○ 米価3円	
			1872	(明5)		○ 米価2円	○ 阿蘇山鳴動、白川が硫水に変ずる
			1873	(明6)		○ 米価3円	○ 夏、50～60年来の大干ばつ
			1874	(明7)		○ 大阪造幣局、磷酸アンモン、過磷酸石灰製造 ○ 米価5円	
		○ 天草の沢田にめい虫発生、5割の被害	1875	(明8)		○ 米価5円	
			1876	(明9)		○ クラーク、札幌農学校教頭となる ○ 米価3円	
			1877	(明10)		○ 第1回内国親業博覧会、魚肥・骨粉・乾糞資などを出品 ○ 米価3円	
			1878	(明11)		○ 米価5円	
			1879	(明12)		○ 石油ランプ誘蛾燈使用開始 ○ 米価7円	
			1880	(明13)		○ 土性調査事業開始 ○ 米価10円	
			1881	(明14)		○ 「大日本農会報告」第1号 ○ 農商務省創設 ○ 米価8円	
			1882	(明15)		○ 横井時敬、塩水発芽試験結果発表 ○ 米価5円	○ 緑川・加勢川、4.8m余の大洪水、雨多く気候不順、田畑の作は不熟
			1883	(明16)		○ 農商務省通信規則公布、これにより農業統計が作られる ○ 米価3円	

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1884 (明17)	○ 農事試験場が県営となる						○ 養蚕試験所桑園に「い縮病」が発生、長野藩平が「い縮病試験」を願い出る、県下桑園にも同病が発生
1885 (明18)							○ 県庁勸業課に蚕糸係が設置
1886 (明19)			○ 田圃虫害予防規則布達				○ 熊本県蚕糸業組合が組織される
1887 (明20)							○ 県、蚕種検査、共進会、博覧会経費を予算計上(明38年まで実施)
1888 (明21)	○ 白井一濯、「神力」の試作成績・栽培法を登録		○ 県南部、めい虫被害大				
1889 (明22)		○ 大阪で全国茶業有志大会開催、本県からも出席	○ 農商務省技師恒藤規隆が土性調査に來熊、1890年完成、土性図編成は1891年			○ 網田村で田添が温州ミカンの栽培を始める	○ 農務局蚕業試験場、折衷育飼育標準表発表
1890 (明23)						○ 網田村長田中栄、紀州の堀内氏よりネーブル苗を導入、栽培を奨励	
1891 (明24)			○ 「熊本県土性図」刊行 ○ 竜田村に骨粉製造所設置 ○ 小川町に螟虫駆除試験地設置			○ 三角の尾山源蔵、温州、ネーブル、夏橙の栽培始める	○ 県、品評会開催の経費補助(明40年頃まで実施)
1892 (明25)							
1893 (明26)	○ 農商務省農事試験場九州支場設置、県内各郡に農事試験所を設置	○ 九州茶業会設置					○ 県、微粒子病による原種用蚕種の不合格と製糸用蚕種の粗悪について注意喚起
1894 (明27)	○ 府県農事試験場規定公布 ○ 八代郡一部農民、稲の移植期繰下げ(遍作法)実施						○ 桑萎縮病の発生が甚だしく、県が試験調査、防除、桑園の取締につき指導奨励
1895 (明28)							
1896 (明29)			○ 害虫駆除予防規則発布	○ 球磨郡川村に国立熊本種馬所が設立、農作業用の馬を改良・育成	○ 千丁町に「肥後花蒔株式会社」ができる	○ 網田村で益田、中國等によりネーブル栽培広まる	○ 県、蚕業世話人設置経費予算計上、実施

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
	○ 人吉市五日町に球磨茶業組合を結成し、茶業改良に努める		1884	(明17)	○ 熊本新聞、「農家の衰微」を論じ「幣その極に達す」と記す ○ 地籍調査始まる	○ 米価5円	○ 8月豪雨、163町浸水
			1885	(明18)	○ 阿蘇、上益城、王名で食糧欠乏	○ 東京の宮本孝之助、足踏み回転イネこき機考案 ○ 米価4円	
			1886	(明19)		○ 東京人造肥料会社創立 ○ 米価4円	
			1887	(明20)		○ 大阪米商会所で種米品評会、入賞432名中180余名は熊本県関係 ○ 米価4円	
			1888	(明21)		○ 中央气象台が気象とイネの関係を発表 ○ 米価4円	
			1889	(明22)		○ 米価5円	○ 作物栽培状況 米 62,500町 単収1.70石 裸麦47,700 0.61 小麦21,900 0.59
			1890	(明23)	○ 熊本測候所設置 ○ 斉藤万吉、農家家計状態調査	○ 農務局仮試験地設置、品種比較試験に着手 ○ 米価5円	○ 7月下旬豪雨、浸水田畑1,493町
			1891	(明24)		○ 同上仮試験地、ムギクロホ病の冷水温浸法試験始まる ○ 米価7円	○ 緑川提防決壊、田畑浸水数百町
			1892	(明25)		○ 新宿御苑に80余坪のガラス温室、園芸作物栽培 ○ 鳥取県中井太郎は軋土式円形除草機(太一車)を考案、特許となる ○ 米価6円	○ 作物栽培状況 米 65,900町 単収1.52石 裸麦62,400 1.00 小麦21,200 0.84
			1893	(明26)		○ 農商務省農事試験場、東京西ヶ原に設置 ○ 米価7円	
			1894	(明27)	○ 肥後米の名声が地に墮ちる	○ 新潟県でラセン型揚水器製造 ○ 埼玉県で双用犁を考案 ○ 米価7円	○ 球磨地方大干ばつ
			1895	(明28)		○ 北海道、無芒・早熟品種「坊主」選出、直播稲普及の一契機となる ○ 稲萎縮病がヨコバイにより伝播されるとの報告 ○ 米価7円	
			1896	(明29)	○ 熊本県農会設立	○ 害虫防除予防法公布 ○ 鈴木商店、硫安5トン輸入 ○ 鹿児島・宮崎・愛知県、短開苗代実施命令、他県も追従 ○ 米価10円	

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1897 (明30)	○ 県令により短冊苗代、塩水選、薄蒔苗代、施肥改善を励行させる		○ 球磨地方螟虫発生、収量2割減			○ 小天の水元鶴次、県命を受け、和歌山よりネーブル導入を奨励	○ 県、蚕種検査所を熊本市桜井町(上通町)に設置
1898 (明31)	○ 県令により短冊苗代の実施を命ず ○ 兵庫、岡山県から、神力(晩稲)、雄町(中稲)を移入					○ 不知火で小山改蔵、モモの栽培を始める	○ 県、郡市町村の蚕業改良を継続奨励(明34年まで)
1899 (明32)	○ 府県農事試験場国庫補助法施行 ○ 明治新田竣工(258ha)						
1900 (明33)			○ 山鹿町、大津末次郎が肥後犂の特許出願	○ 県下各地に郡単位の産牛馬組合が設立、これより県において県外や外国から種雄馬・牛を導入、家畜改良に取り組む			○ 県、蚕病消毒励行、霜害防除、蠶蛆駆除について訓令
1901 (明34)	○ (このころ、すでに玉名・鹿本・菊池・天草・下益城・八代・芦北の7郡に農事試験場が設立)				○ 千丁村に八代郡量表組合が結成される	○ 県農会、ネーブルの試験園を河内村尾跡に設置、377本を植付ける	○ 長野忠次、桑新品種を創成、「永徳赤芽魯桑」と命名
1902 (明35)						○ 河村九淵、熊本市池上にモモ、ブドウ栽培を奨励	○ 県、共同製糸組合補助規程により、輸出向け生糸の製造を明治40年まで奨励
1903 (明36)			○ 富田基平、水閘土管発明、暗渠排水・蓄水を自由にコントロール			○ 芦北湯浦で吉川亀太郎、ネーブルの栽培を始める	○ 県、秋蚕飼育の増加により、桑園の肥培管理を怠らないよう告諭
1904 (明37)	○ 県が稲正常植、籾種子塩水選励行を強化、菊池郡では警察権の発動					○ 関島増男、荒尾でネーブル、夏橙、蜂屋柿の栽培を始める	
1905 (明38)	○ 下益城郡農会、種子更新目的で、西砥用村に採種田設置、岡山、兵庫県から神力・雄町を移入、栽培					○ 竜北で山田勝馬、ナシ、モモの栽培を始める ○ 人吉御薬園で山田勝馬、ナシ園を開く	○ 県、蚕病予防事務所を設置
1906 (明39)			○ 「富田式暗渠排水法」刊行		○ 肥後蘭筵同業組合組織化(製造業者、販売業者統一)	○ 三角で猿渡次郎、温州を植栽、模範園となる	
1907 (明40)	○ 県農会は、菊池郡に採種田、原種田を要請し、郡農会監督の下に経営(本県採種事業の発足)			○ 県が産馬10カ年計画を策定	○ 肥後蘭筵同業組合が創設	○ 牛深で、中原亀七等、温州ミカンの栽培を始める ○ 田浦で鶴田元三郎、ネーブル、日向夏、レモンの栽培を始める	○ 県、蠶蛆駆除予防について告諭

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
			1897	(明30)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 足尾銅山鉍毒被害農民、上京し請願運動 ○ ウンカ大発生、農商務省農事試験場に昆虫部設置 ○ 米価14円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作物栽培状況 米 68,100町 単収1.69石 裸麦63,500 0.90 小麦23,200 0.78
			1898	(明31)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高田久四郎、イネの自家受粉確認、除雄して人工授精 ○ 米価8円 	
			1899	(明32)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 肥料取締法公布 ○ 米価10円 	
			1900	(明33)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 石灰肥料取締規則 ○ 米価9円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.6~13 大洪水、田畑浸水28,675町
			1901	(明34)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農商務省農事試験場、「イネの栽植密度と播種量に関する研究」発表、縦縄及び定規を用いた正常値4種を発表 ○ 長野県、松山原造が双用犁の特許 ○ 大阪、山形、灌漑に電動機使用 ○ 米価10円 	
			1902	(明35)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 籾種塩水選、短冊苗代、正常植など、各県が奨励 ○ 米価12円 	
			1903	(明36)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農会調査による米統計始まる ○ イネ人工交配育種始まる ○ 米価11円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作物栽培状況 米 69,000町 単収1.77石 裸麦60,900 0.69 小麦24,200 0.61
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 県下全域で干ばつ、天草の被害が特にひどく稲3割減、畑作収穫皆無 	1904	(明37)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 全国農事会、戦時食糧増産必須事項として、塩水選、短冊共同苗代通し苗代廃止、虫害防除、麦黒奴防除、二毛作普及、堆肥改良をあげる ○ 米価11円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 小国地方に定常植と籾種子塩水選が普及 			1905	(明38)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 北海道、末武安次郎が黒田式水稻直播機(鋤足式)を考案 ○ 米価13円 	
			1906	(明39)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価13円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇郡で正常植を強制 			1907	(明40)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本窒素肥料株式会社鏡工場設立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米穀検査制度確立 ○ ボルドー液実用化、石灰硫黄合剤が紹介される ○ 水田の牛馬耕面積60%に達し、短床犁一般化 ○ 米価14円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作物栽培状況 米 72,100町 単収2.00石 裸麦59,500 0.80 小麦25,300 0.83

年次		主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
		農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
							○ 水俣で元山康雄、温州ミカンの栽培を始める	
1908	(明41)				○ 国立種馬所、菊池郡合志村へ移転		○ 不知火で川野運等、ナシ、モモ、ミカンの栽培を始める ○ 荒尾で関島増男等、ナシの栽培を広める ○ 球磨のナシ園に紋羽病が広まる ○ 小天、河内のミカン園で小島銀吉がミカンバエの被害を認める	
1909	(明42)		○ 茶栽培法基準策定 ○ 釜炒茶を基本製茶とし、紅茶等に変わるものとして改良茶を奨励			○ 県が補助金を支給し、肥後蘭荏販売組を組織	○ 県農会、小天にミカンの模範園を設置 ○ 全国果実品評会において、小天のネーブル、温州大量入賞し、その三分の一を占める	
1910	(明43)	○ 県会に農業試験場設置案が提案され、満場一致で可決 ○ 県農会、城北村に直営の原種田設置				○ 野口式足踏み織機が登場、従来1日1枚製織から1日3枚の製織能力となる	○ 河内村尾跡のネーブル園で、はじめて青酸ガスくん蒸を行う ○ 県農会、県下に果樹苗圃を設置	○ 県農会、桑の種類試験地を鹿本郡桜井村に設置
1911	(明44)	● 熊本県農事試験場設置(飽託郡出水村大字国府字三嶺道、農商務省農事試験場九州支場に隣接) ○ 県農会指定採種田として5郡7ヶ所の採種組合を選定	○ 県、全国に先駆けて茶の専門技術員を1名設置 ○ 耕地集団茶園1,062ha			○ 千丁村野口喜太郎、野口式足踏みゴザ織機製造	○ 三角で、下田、岩崎、枝村等により温州ミカンの栽培広まる ○ 熊本市島崎で平塚、牧野等によりナシ、ブドウの栽培広まる	● 熊本県立原蚕種製造所が熊本市南千反畑町に設立
1912	(明45)(大元)	○ 熊本県立農事試験場分析規程制定 ○ 県が農事4大必須事項を発表 ①水稲協同苗代の実施 ②陸稲栽培地の拡張 ③陸稲栽培法の改良 ④麦作の改善	○ 農商務省農事試験場九州支場の茶園の一部を借り入れ試験開始 ○ 農事試験場に製茶機械室等を設置					
1913	(大2)	○ 熊本県立農事試験場種子配布規程制定 ○ 県農会、各部農会に陸稲採種圃を設置させる	○ 試験茶園50aを新設し、試験研究を拡大 ○ 茶業講習を開始 ○ 県茶業組合連合会議所、模範茶園を設置	○ 病害虫駆除予防規程公布			○ 球磨で丸小野、賀久、寺田、上田等、ナシの栽培を広める ○ 天草の下浦で吉田敬太郎等、温州ミカンの栽培を始める	○ 蚕卵の冷蔵浸酸法、原蚕種の飼育温度、桑葉の飼料価値に関する研究(～大9) ○ 原蚕種製造所、水前寺本町100へ移転
1914	(大3)	○ 県採種圃60町となり、郡農会採種を廃止		○ 麦黒穂病予防のため、湯湯浸を奨励 ○ 上益城郡に4ヶ所の螟虫発生査察用検知灯				○ 県、県下各地で桑接木講習会開催、苗養成に補助金交付

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
			1908	(明41)	○ 日本窒素肥料株式会社、水俣にカーバイト工場完成	○ 市原ツギ、水稻品種「福神」を選出 ○ 大工原銀太郎ら、「土壌酸性の原因ならびに酸性土壌に関する研究」発表 ○ 米価12円	
	○ 球磨郡錦町一丸、今山地区にごぼう(滝の川)を導入して栽培		1909	(明42)	○ 日本窒素肥料株式会社、水俣に石灰窒素工場開設	○ 薙織機発明 ○ 農商務省農事試験、「肥料分析法」刊行 ○ 米価10円	
			1910	(明43)		○ 農商務省農事試験場陸羽・九州支場でイネの交配育種開始 ○ 米価13円	
			1911	(明44)		○ 米価15円	
			1912	(明45) (大元)		○ 誘蛾灯に電灯使用始まる ○ 秋田式田植法(杵を転がしてする)による正常植始まる ○ 米価21円	○ 豪雨、田畑浸水13,701町
			1913	(大2)		○ 帝国農会、最初の農家経済調査 ○ 米価18円	○ 作物栽培状況(明44~大4平均) 米 74,100町 単収1.97石 裸麦60,100 0.84 小麦26,400 0.84
			1914	(大3)	○ 日本窒素肥料株式会社鏡工場で、空中窒素固定による日本最初のアンモニア製造開始	○ 農商務省、植物検査所設置 ○ 財団法人大原農業研究所創立 ○ 米価11円	○ 8.23~26 台風・高潮、潮害面積田3,680町、畑1,322町以後、耕地整理組合の組織が進む

年次		主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
		農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1915	(大4)		○ 県農事試験場、工場における製茶品質向上のため改良茶製造法の要点を策定し当業者の啓発に勉む			○ 飽託郡で七島いの委託栽培試験		
1916	(大5)	○ 水稲「1号雄町」奨励品種採用 ○ 県下原種田を菊池郡城北村に集める	○ 県、主産地に委託試験地7ヶ所を新設		● 10月：球磨郡一武村に熊本県立種畜育成所として発足、用地面積200ha ○ 11月：候補種雄馬15頭、候補種雄牛8頭を購入し業務開始		○ 田浦で鶴田元三郎、バレンシア、早生温州ミカンの栽培を始める	○ 県、交雑蚕種製造飼育分場設置(天草・宇土：早場地、阿蘇・菊池・上益城：遅場地)
1917	(大6)	○ 原種田が県農事試験場経営に移される	● 農事試験場内に茶業部を新設、茶業全般にわたる試験研究開始 ○ 農事試験場、茶種別・製造方法別収支を明らかにし、機械製造の有利性を啓発		○ 畜産10カ年計画を策定		○ 県に果樹専任技師を設置	
1918	(大7)	○ 田麦間作馬鈴薯栽培法発表			○ 種鶏業務を開始		○ 河内村で柑橘の病虫害防除、剪定方法等の指導を始める ○ 津奈木村で丸山、伊藤、永里等が温州ミカンの栽培を始める	○ 阿蘇郡坂梨村の試験桑園で甘桑桑、大葉風返について良好な試験成績発表
1919	(大8)	○ 稲作本位麦作法(初めての大きな成果) ○ そ菜、特用作物、病虫害研究、施肥標準調査に着手(このころから野菜・果樹園芸に関する試験研究本格的開始) ○ 米麦採種ほの設置	○ 県、専任技術員1名増員		○ 熊本県種畜場に改称 ○ 預託牛馬の育成開始		○ 県農事試験場で果樹の病害研究、施肥標準調査開始 ○ 三宅恒方、小天でミカンバエの被害を調査 ○ 河内の田尻鍛、青江早生導入	○ 県、各郡1ヶ所桑多収試験桑園設置
1920	(大9)	○ 清水村の米麦採種圃6町を県農会から引き継ぐ ○ トマトの温室栽培始まる			○ 種豚繁殖業務を開始			
1921	(大10)			○ 農機具試験開始			○ 河内、小天の小ミカンに早生温州ミカンの高接を始める ○ 不知火でブドウ、ビワ、温州ミカンの栽培広まる	
1922	(大11)	○ 寒冷総合試験開始 ○ 藤本虎喜を中心に、水稲晩化栽培試験開始 ○ 水稲「1号神力」「九州8号」奨励品種採用	○ 農事試験場、他動式送带式蒸機(いわゆるスタレ蒸)を奨励	○ 弥富村六田：堤防に蒸気揚水機設置	○ オーストラリアより種雌馬11頭を導入 ○ フランスよりシンメンタル種雄牛1頭導入 ○ 気腫疽、豚コレラ、炭疽病等が流行	○ 本県のイグサ栽培面積が187.7町となり、全国第4位となる	○ 県農産園芸品評会を開催	○ 県蚕業試験場の設立(原蚕種製造所を改名) ○ 分離白一号の育成、夏秋蚕不作原因に関する研究、民衆育に関する研究(～昭8)

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
			1915	(大4)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本育種学会第1回総会 ○ 日本植物病理学会創立 ○ 米価13円 	○ 沖新村高潮被害田 250町
			1916	(大5)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国、米麦品種改良規則制定、府県営採種圃に国庫補助 ○ 米価15円 	
			1917	(大6)	○ 肥後米券倉庫株式会社解散	<ul style="list-style-type: none"> ○ セット型石油発動機輸入され、農業利用 ○ 米価21円 	○ 7月台風、水俣の柑橘被害大
	○ 大正7～8年頃、製茶機械が設置された		1918	(大7)	○ 県下各地で米騒動、軍隊出動	○ 米価37円	
			1919	(大8)	○ 松田喜一が肥後農友会創立	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主要農作物改良増殖奨励規則交付 ○ 米騒動 ○ 米価50円 	○ 玉名郡、飽託郡で高潮被害、浸水耕地526ha ○ 8月台風、玉名、飽託の果樹に被害大
			1920	(大9)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 渡辺弁三、最初のゴムロール式もみすり機の特許 ○ 種子消毒剤の有機水銀剤ウスブルン輸入、ひ酸鉛などの農薬使用量増加 ○ 米価25円 	
			1921	(大10)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻耐寒性品種「陸羽132号」育成 ○ 米穀法施行 ○ 米価36円 	
○ 阿蘇郡宮地町で寒冷地総合試験を開始（～大13）			1922	(大11)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 揚水、脱穀、籾すり、精米の機械化始まる ○ 米価26円 	○ 7月豪雨 ○ 豊川村346町が水害

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1923 (大12)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八代郡下3ヶ町村、水稻晩化栽培、現地で好成绩 ○ 水稻「旭号」「福神」「神力」を原種に編入 ○ 水稻「福神」「旭号」奨励品種採用 ○ 有佐村高田作次、キュウリ半促成栽培のためフレーム20間を作る 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農機具に関する研究開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ フランスよりアングロノルマン種雄馬2頭導入 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 高田の小ミカンの古木、洪水のため流失 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県、商工課から分離して蚕系課を設置
1924 (大13)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寒冷試験地廃止 ○ 水稻「神力もち」「1号山北坊主」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県、新たに手揉製造法を策定 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 菊池郡合志村の現在地(農林省熊本種羊場の跡地)へ移転 ○ 乳牛・めん羊の繁殖業務開始 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 沢太平洋オレンジ品評会において河内の田尻鍛のネーブルが1位入賞 	
1925 (大14)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 陸稲試験開始 ○ 旧農商務省農業試験場九州支場開こん地試験2町を委託を受け経営 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 天草の下浦で松岡新太郎がボンカンの栽培始める 	
1926 (大15) (昭元)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清水村採種圃を原種圃と改称 ○ 水稻晩化栽培は八代郡全域に普及 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県初のゴルフ試演会が種畜場で開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 岡山県から動力織機導入、八代郡のい草加工を飛躍させる 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕系課が商工課と合併し商工蚕系課となる
1927 (昭2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全額国庫補助により九州支場の施設を購入 ○ 九州地区における水稻新品種育成試験開始 ○ ナス品種比較試験(～昭5) ○ 田迎村にペーパーハウスによる促成栽培 ○ 八代地方、早出しスイカ・カボチャ栽培が盛んになる 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 小天ミカンを満州に輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県蚕業技術員協会創立
1928 (昭3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻、麦の深耕試験(～昭9) ○ 小麦原種圃設置 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 県営新地(八代郡地先)完工 ○ 県下のいもち病発生甚 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県有種雄馬(雲井号)を献上 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業試験場に蚕業技術員養成所設置
1929 (昭4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天草郡の水稻晩化栽培現地試験が成功 ○ 熊本県立農事試験場農具貸付規程制定 ○ 水稻旭一号を原種に編入(奨励品種採用) ○ 本省指定の肥料施用方法改善試験開始 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 国立肥後種鶏場が設立(現合志市西合志) ○ 産卵能力検定開始 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 水井吉彦、三角町に宮川早生を導入 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
			1923	(大12)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 石油発動機量産に入る ○ ローター式動力耕うん機、平型歯輪型畜力耕うん機、岩田式もみすり機が普及 ○ 米価31円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月の豪雨、球磨川、緑川等氾濫 ○ 7.4~5豪雨、浸水田畑6,664町 ○ 7.10~12豪雨、浸水田畑3,269町
			1924	(大13)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻陸羽132号、旭、銀坊主の普及始まる ○ 小麦の多肥耐病性品種が育成される ○ 米価38円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作物の栽培状況(大10~14年平均) 米 77,000町 単収2.01石 裸麦58,100 0.91 小麦25,500 0.91
			1925	(大14)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農商務省、農林省と商工省に分立 ○ 第1回農学会、日本農芸化学会連合大集会 ○ 水稻品種、西日本は「神力」から「旭」系へ ○ 農林省「小麦新品種育成に関する地方的試験要綱」を定め組織を整備 ○ 米価40円 	
			1926	(大15) (昭元)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日本窒素肥料株式会社鏡工場を買収して大日本人造肥料株式会社鏡工場が設立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農学会長麻生慶次郎、土壌調査の標準を作成、農学会法と呼ばれる ○ 米価35円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県各地に大洪水
			1927	(昭2)		<ul style="list-style-type: none"> ○ イネの育種組織の確立と地域別育種目標設定 ○ 米価34円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海沿岸に潮害、被害耕地3,574町 ○ 作物の栽培状況(昭和元~5年平均) 米 77,800町 単収1.96石 裸麦 52,700 1.22 小麦 26,900 1.08 甘しょ 16,093 1,209kg 大豆 13,910 99kg <ul style="list-style-type: none"> ○ 9月台風、河内、小天、玉名地方のミカン、ナシの被害大
			1928	(昭3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県動力糶業者取締規則制定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻全国的品種改良組織整備 ○ 化学肥料普及、硫安は大豆粕使用量と並ぶ(成分換算) ○ 米価27円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 台風潮害、農作物被害甚
			1929	(昭4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿本郡の小作争議激化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業土木学会設立 ○ 全購連が配合肥料製造開始 ○ 米価25円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 金剛村に潮害 ○ 12.16異常高潮、明治新田25町浸水

年次		主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
		農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1930	(昭5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 粟の原種事業開始 ○ ナス一代雑種利用試験(～昭8) ○ スイカ品種比較試験(～昭9) ○ 水稲晩化栽培計画を確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県、模範製茶工場5ヶ所設置(～昭6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウンカ類に対する除虫菊浸出石油の防除法確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県養鶏連合会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八月苗が導入され始める 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 河内村で青酸ガスくん蒸広まる(冬期) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏秋蚕不作原因の究明
1931	(昭6)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇寒冷地試験地(阿蘇郡宮地町)、園芸試験地(熊本市池田町)設置 ○ 水稲「宝」を育成原種に編入(奨励品種採用) ○ 水稲「2号熊島」、小麦「江島神力」を原種編入 ○ 水陸稲、麦、粟、大豆原種配布規程制度 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農事試験場、煎茶製造法策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲に対する堆肥の連用試験(～昭12) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ フランスより種雄馬1頭導入 ○ 阿蘇郡などに牧野組合結成 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 湯浦村で、吉川瑛、柳田豊熊等、温州ミカンの栽培を始める ○ 牛深の浅海で太田寂然、カンキツを奨励 ○ 五和村で芦原、坂本、高橋、大井等、温州ミカンの栽培を始める 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県、指導桑園を各都市に設置
1932	(昭7)	<ul style="list-style-type: none"> ○ トマト、キュウリ品種比較試験(～昭9) ○ 水稲「神光」奨励品種採用 ○ 菜種種子配布規程制定 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜牛の肥育試験実施 		<ul style="list-style-type: none"> ● 河内村に農事試験場の柑橘試験地を設置 ・実習生、農業技術員養成所練習生に対し教育開始 ・蔬菜試験地でキコク台木10aを植栽開始(翌年より試験樹植栽) ○ 小天で、坂門年行等、早生温州ミカンの高接を始める 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業試験場長大橋平三郎が主体となり新蚕種「分離白1号」を創成
1933	(昭8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 根瘤菌培養配布事業開始 ○ 天草郡、八代郡の水稲晩化栽培実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農事試験場茶業部が茶業研究所として独立(飽託郡健軍村)、新耕種法設定 ○ 水俣の松本勝喜等、茶園7.85ha開園 					<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑園施肥標準調査、土壌水分と桑葉の飼料価値に関する研究、緑肥作物に関する研究(～昭16)
1934	(昭9)	<ul style="list-style-type: none"> ○ トマト「熊本10号」育成 ○ 本省の畑地利用試験開始 ○ 水稲「早生旭」奨励品種採用 ○ 晩期栽培24,000町に達する 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機械製釜炒茶製造法(熊茶研式)確立 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 日奈久で本村等、温州、井関早生の栽培を始める ○ 河内晩柑の原木発見 	
1935	(昭10)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小麦萎縮病試験最盛期(～昭15) 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 役馬利用練習生養成所併設、農家の子弟に役畜利用による営農技術を取得させる(戦後は畜産講習所へ) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県花菱畳表工業組合を結成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県柑橘試験地で苗木の育成配布を始める ○ 不知火で、ブドウ酒醸造を始める ○ 不知火のブドウに環状剥皮技術広まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県繭検定所設置

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
	○ 上、一武、西(以上現錦町)各村の平坦地で茶園造成が行われる		1930	(昭5)	○ 県商工奨励館が肥後スイカの宣伝ポスター作成 ○ 群衆争議	○ 明治20年代からの水稲主要品種、神力、大場、白石、愛国、坊主、亀の尾が、漸次、旭、陸羽132号に変わる ○ 極早生水稲「農林1号」の育成 ○ 米価20円	
○ 阿蘇郡宮地町に農事試験場寒冷地試験地として設置			1931	(昭6)	○ 二毛作から三毛作・四毛作へ	○ 農林省、イモチ病対策として種もみの温湯浸消毒、被害わらの処分をとりあげる ○ 米価17円	
			1932	(昭7)	○ 糸価の暴落	○ 米穀法改正、米の最低価格を生産量で決定 ○ 米価19円	○ 7.4~5豪雨、浸水田畑、6,664町
			1933	(昭8)		○ 米穀統制法公布 ○ 米価14円	○ 2.24阿蘇山大爆発 ○ 9.19台風、荒尾町、小島村、金剛村に潮害
○ 阿蘇郡内牧町へ移転、農林省畑地利用試験開始			1934	(昭9)	○ トウモロコシのステッキ、海外12カ国に見本発送 ○ 白川分水で流血騒ぎ	○ 小型耕うん機競技会、ロータリー式耕うん機普及の端緒 ○ 米価25円	○ 7.22~8.15県下全域大干ばつ、十数ヶ町村で収穫皆無 ○ 8月干ばつ、果樹被害大
			1935	(昭10)	○ 県経済部創設、経済更正、土木、農務、林務、耕地、商工水産、蚕糸の7課 ○ 県下の豪雨被害甚大	○ 肥料施用量、硫酸が大豆粕を凌駕 ○ 米価28円	○ 作物栽培状況 米 78,000町 単 取2.11石 裸麦 47,700 1.20 小表 33,500 1.14 甘しょ 16,217 1,106kg 大豆 11,670 102kg

年次		主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
		農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1936	(昭11)	○ 場友会機関誌「研農」創刊			○ 第1回役馬利用指導者養成所の卒業生23名	○ 蘭草試験地開設(八代郡千丁村) ○ 肥後い筵同業組合、千丁村にい草試験地設置		
1937	(昭12)	○ 水稲「農林12号」育成、原種編入		○ 石灰ボルドーの種類・配合比検討			○ 河内村でカルチットくん蒸を始める	○ 一代交雑種の飼育が全体の98%を占める
1938	(昭13)	○ 水稲「瑞豊」「農林12号」奨励品種採用 ○ 甘藷原種配布規程制定		○ 展着剤試験	● 県種畜場天草分場設立(天草郡本渡町) ○ 天草分場で黒毛和種候補種雄牛の預託育成事業を開始 ○ 日中戦争に伴う軍馬生産研究、労働力補填のための役牛増殖、牛乳生産等の研究	○ 県、母樹園を13ヶ所設置	○ 県下全桑園に「スキムシ」が発生	
1939	(昭14)	○ 麦赤かび病石灰硫黄合剤散布試験 ○ 茶業試験地で陸稲試験を並行して実施 ○ 水稲「農林8号」奨励品種採用 ○ この頃の水稲主要品種普及状況 宝:熊飽、宇城、玉名、鹿本、菊池の平坦地 旭1号:球磨、上益城、天草、八代の中山間部 福神:その他の地域	○ 農事試験場茶業試験地となる ○ 苗木育成、摘採法研究、紅茶用茶樹地方適否試験、紅茶製造研究開始		○ 天草分場で種豚、育雛業務を開始			
1940	(昭15)	○ 甘藷・青刈大豆両試験地設置 ○ 米穀増産目標200万石達成のため、平坦地「宝」、中山間地「旭1号」寒冷山間地「福神」を推奨		○ 甘藷病害虫防除試験重点化		○ 八代郡のい草600町、戦前の最盛期	○ 八代郡吉野村の廿世紀ナシ、上海輸出許可となる	
1941	(昭16)	○ 水稲「農林18号」育成、奨励品種採用 ○ 阿蘇試験地、水稲硫黄分施肥時期試験(~昭18)		○ 病害虫発生予察事業開始	○ 県内各地に養豚組合設立			

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
	○ 球磨郡農家が北海道八雲地方から男爵イモ種子約800俵を購入し、郡内各町村農会と協力して栽培を奨励 ○ 茶の生産量が300トンを超え、県生産量の34%を占めると言われる	○ 天草畜産組合により天草郡本渡町に候補種雄牛育成牧場設置	1936	(昭11)		○ 主要肥料等統制法公布 ○ 石川県広瀬与吉、クランク型耕うん機考案 ○ 米穀自治管理法 ○ 米価29円	○ 3月球磨地方寒風甚だしく、農作物被害大 ○ 文政村堤防決壊、田畑600町浸水 ○ 作物栽培状況(昭11~15年平均) 米 77,400町 単収2.23石 裸表 46,800 1.16 小麦 38,300 1.12 甘しょ 21,270 1,161kg 大豆 10,280 93kg
			1937	(昭12)	○ 政府直営の無水アルコール工場を大津町に誘置	○ 日中戦争で農業労働力流出が顕著になる ○ 労働力低下のため動力脱穀機の普及進む ○ 米価31円	
○ 雑穀育種指定試験地設置 ○ 畑地利用試験廃止		○ 候補種雄牛育成牧場が県に移管され種畜場天草分場となる ○ 種雄牛の預託育成事業開始	1938	(昭13)	○ 苧麻が花形農産物	○ 全農家申告による「農家一斉調査」 ○ 国家総動員法 ○ 米価33円	
		○ 種雄豚、育雛業務開始	1939	(昭14)		○ 米穀配給統制法公布 ○ 肥料配給統制規則施行 ○ 米の強制買入れ制度始まる ○ 噴霧機、水田薬剤散布に使われ始める ○ 米価36円	○ 阿蘇山鳴動盛ん、阿蘇谷に降灰、特にタバコの被害が大きい ○ 7~8月干ばつ、県下植付け不能722町
			1940	(昭15)	○ アルコール工場ピンチ(県農会が甘藷の供出奨励)	○ 農林省農事試験場、不急試験研究を整理 ○ 農林省、イネ品種は多収品種に転換 ○ 米価41円	○ 8.24阿蘇山鳴動、農作物に被害 ○ 9月台風、カンキツ、ナシ、カキ4割減
			1941	(昭16)	○ 農作物の増産施策 ○ 肥後チャボ、国の天然記念物に指定 ○ 桑の根こぎ(麦の大増産計画) ○ 産卵日本一(鹿本郡千田村姫井氏)	○ 物資統制令 ○ 病害虫発生事業始まる、誘蛾灯用青色蛍光灯考案、効果確認 ○ カルチベーター、動力噴霧機普及 ○ 水稻「藤坂5号」育成 ○ 米単収減退し始める ○ 米価49円	○ 作物の栽培状況(昭16~20年平均) 米 75,400町 単収2.05石 裸表 46,100 1.11 小麦 41,300 1.05 甘しょ 20,537 1,363kg 大豆 6,849 79kg ○ 昭16米穀年度実収高 水稻1,756,759石

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次		農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1942	(昭17)			○ いもち病分生孢子飛散状況調査(～昭25) ○ 麦類さび病菌夏孢子飛散状況調査開始			○ 県に園芸係設置	
1943	(昭18)	○ そ菜園芸試験地を廃止し、本場に移す ○ 厚生省のリンドウ委託試験開始		○ 県公報で、各町村に病害虫防除班設置			○ 戦争による作付統制令公布	○ 下益城、鹿本、飽託郡で始まった稚蚕共同飼育が他郡へも普及
1944	(昭19)	○ 農事指導所に改称、戦時下のため試験研究より食糧増産を優先 ○ 阿蘇試験地、とうもろこし・大豆混作試験(～昭23) ○ 水稲「農林29号」「農林33号」奨励品種採用 ○ 共同苗代の徹底のため苗代検査			○ 天草分場で養鶏業務開始			○ 県蚕系課が織維課と改称
1945	(昭20)	○ 名称が農事試験場に戻る ○ 県・農会共同で稲の早期定植を奨励		○ 小麦なまぐさ黒穂病に対するウスブルン浸漬法確立	○ 産業振興4ヶ年計画を発表(畜産振興が主要政策の一つとなる)		○ 戦争の影響を受け果樹園の荒廃、衰微甚し	
1946	(昭21)	○ 水稲「農林37号」奨励品種採用					○ 県果実協会設立	○ 蚕品種「金峰×有明」の育成
1947	(昭22)	○ 麦「九州裸3号」認定品種採用		○ 土壌調査を主体とする調査部を設置、低位生産地事業に着手	○ 役馬利用指導者養成所を有畜営農指導所と改称	○ い草試験地は廃止	○ 柑橘試験地、果樹試験場として独立 ○ 県下で果樹苗木の民間育苗始まる ○ 県、果樹増殖を奨励(目標2,770ha) ○ 動力噴霧器の導入始まる	○ 草生栽培用大豆「グラスダウン」の発見 ○ 土壌検定器の考案 ○ 蚕体消毒剤「T1」の創製 ○ 家蚕の水分生理に関する研究 ○ 桑萎縮病に関する研究(～昭32) ○ 県織維課が蚕系課と改称
1948	(昭23)	○ 阿蘇試験地、高冷地園芸に関する試験開始、なたね品種比較試験(～昭25) ○ 水稲「農林39号」奨励品種採用	○ 茶業試験地、茶業試験場として独立 ○ 優良品種の挿木育苗法、茶園施肥法、製茶機械の改善試作による製茶法確立等の研究開始	○ 開拓地土壌調査事業開始 ○ 農業DDT乳剤の割当を受ける			○ 果樹園芸講習所併設、果樹試験場天草分場設置 ○ 県果実農業協同組合設置	○ 県蚕系振興協力会設立

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
○ 厚生省委託リンドウ試験(～昭21)			1942	(昭17)	○ 米穀は、容量検査から60kgを1俵とする重量検査に変わる	○ 食料管理法公布 ○ 米穀検査令公布、米麦検査は国営 ○ 長野県萩原豊次、保温折衷苗代考案 ○ 米価49円	○ 8.27台風、有明・不知火海で潮害 ○ 4月晩霜、ナシ、カキ被害大
			1943	(昭18)		○ 労働力不足深刻化 ○ 米価63円	○ 8月天水村に旋風 ○ 県、産米収高発表、82,761町 実収高1,639,529石 ○ 10月台風、カンキツ、ナシ、カキなどに被害
			1944	(昭19)		○ 肥料は農業会で一元配給 ○ 女子挺身隊、農村へ派遣 ○ 米価63円	○ 5.9～10豪雨 田畑 6,082町浸水 ○ 7.21～22豪雨 田畑 1,097町浸水 ○ 9.16～17台風 田畑 1,324町浸水 ○ 高潮 田305町、畑38町収穫皆無
			1945	(昭20)		○ 緊急開拓実施要領決定 ○ 米価300円	○ 9.17台風、田畑流出8町、浸水212町 ○ 9月台風、ナシ7割減
○ 厚生省委託リンドウ試験廃止		○ 種鶏業務開始	1946	(昭21)	○ 九州開拓事務所開設 ○ 未曾有の食糧不足 ○ 闇米摘発	○ 政府、食糧300万トン輸入を総司令部に要請 ○ 農林省、食糧非常対策を決定、2,656万石の供出割当 ○ 農地改革二法案成立 ○ 米価550円	○ 6.21～22豪雨、田畑648町埋没
○ 農林省指定雑穀育種試験が本省直轄の農林省熊本農事改良実験所阿蘇試験地となる			1947	(昭22)	○ 熊本県開拓協会設立 ○ 県、第1次産業振興計画発表 ①農業生産の回復と増産 ②特産品の加工製品化 ③未開発資源の開発	○ 第1次農地買収 ○ 農林省統計調査事務所新設、県毎に作物報告事務所設置 ○ 農業協同組合法案閣議決定 ○ 米価1,750円	○ 5.26阿蘇山爆発、南郷谷降灰 ○ 7.21～25豪雨田畑 1,780町流出、634町浸水 ○ 作物の栽培状況(昭21～25年平均) 米 73,200町単収2.36石 裸麦 40,000 1.11 小麦 34,000 0.99 甘しょ 19,324 1,495kg 大豆 5,607 80kg
○ 高冷地園芸に関する試験開始		○ 果樹試験場天草分場設置(天草郡本渡町) ○ 温州、ポンカン、河内晩柑、ネーブル、ピワ等植栽、試験研究開始	1948	(昭23)	○ 県下最初の農協、豊野村農協設立 ○ 農業団体の設立状況 7.15県畜産販売農協連設立総会 7.23県販売農協連設立総会 7.23県購買農協連設立総会 8.13県養蚕販売農協連設立総会 8.15県生産農協連設立総会 9.15県開拓生産農協連設立総会 12.1県果実農協連設立総会 ○ 県下初の誘蛾灯設置 ○ 米、カライモの早期供出に報奨制	○ 農薬取締法公布 ○ 農業改良助長法公布 ○ 全国農業団体の設立状況 10.12全国購買農協連 10.13全国販売農協連 10.16全国養蚕販売農協連 10.23全国指導農協連 11.29全国開拓農協連 ○ 水稻品種 西日本:旭から農林18号、農林12号へ、近畿中四国:農林22号、金南風、ミホニキ普及、東北東山:藤坂5号普及 ○ 米価3,595円	○ 暖冬異変農作物被害大

年次		主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
		農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1949	(昭24)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇試験地、水稻の保温折衷苗代試験開始、麦類寒害対策試験(～昭25)。 ○ 水稻直播栽培に関する試験開始。 ○ 園芸試験地設置(上益城郡秋津村)、本部園芸部と並行して試験研究開始 ○ 水稻「農林36号」「肥後もち4号」奨励品種採用 ○ 麦「農林61号」奨励品種採用 ○ 大豆「白莢1号」「コガネダイズ」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 煎茶及び釜炒製玉緑茶の標製造法確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウンカ類に対するBHC散布試験 ○ 熊本の軍政部、DDT、BHC使用勧告 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天皇陛下巡幸(5月) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花菱指導所設置(八代郡千丁村) 		
1950	(昭25)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻の保温折衷苗代が山間高冷地に普及 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 尿素の葉面散布試験 ○ 水田除草剤2,4-D剤の普及推進始める 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 牛の流感、豚コレラ流行 ○ 第1回家畜人工授精師養成講習会が開催 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹試験場菊池分場設置 ○ 県内各地に指導ほ場や母樹園を設置 ○ 田浦で甘夏橙の栽培始まる ○ 八代市に晩白柚導入 ○ 小天農協にみかん動力選果機導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県、煙草耕作者と養蚕者の協調について各市町村等へ通達
1951	(昭26)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇、矢部、球磨、水稻保温折衷苗代が本格的普及 ○ 水稻二条培土、普及始まる 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋ウンカ大発生、被害極めて大 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「岡山3号」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 害虫研究室で害虫関係の試験研究開始 ○ 横島村で宮川早生30ha集団栽培 ○ 荒尾ナン南方輸出始まる ○ クリタマバチ異常発生、山栗が全滅 	
1952	(昭27)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場に改称 ○ 矢部、球磨(人吉市)、天草(天草郡本渡町)試験地設置 ○ 水稻奨励品種決定試験(～継続) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶業試験場球磨分場開設 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 牧野開発試験地、阿蘇郡内牧町に設置 ○ 日本褐毛和牛登録協会設立 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹試験場芦北分場設置 ○ 河内、小天ミカンのダンボール輸送試験実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県及び各地方のBMクラブ(30才までの養蚕青年)結成

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
○ 水稲保温折衷苗代の試験開始			1949	(昭24)	○ 普及だよりくまもと創刊 ○ 大豆増産に報奨金	○ 主要食料配給制度強化要領閣議決定 ○ 土地改良法公布 ○ 農業改良普及事業実施要綱指示 ○ いも類統制廃止 ○ 米価4,250円	○ 6月デラ台風、樹木、落果被害拡大
			1950	(昭25)	○ めん羊飼育盛ん	○ 植物防疫法公布 ○ 毒物及び劇物取締法公布 ○ 農林省、農業関係試験研究機関を統合し、農業技術研究所発足 ○ 米価5,420円	○ マージ、ルース台風、豪雨
○ 水稲保温折衷苗代栽培試験(～昭30) ○ 春播キャベツ、早生大根、春播ニンジン、抑制トマト等の品種選定播種期、阿蘇長ナスの系統分離等の基礎試験開始 ○ 大豆の種場に関する試験(～昭28) ○ 大豆品種及び育成系統燐欠土壌適応性検定試験(～昭30)	○ 水稲保温折衷苗代が本格的普及		1951	(昭26)	○ ミカン豊作異変 ○ 干ばつ被害15億円	○ F A O加入 ○ ドイツより農業ホリドール輸入 ○ 新農業 D D T、パラチオン、有機水銀剤の研究普及進む ○ 雑穀類統制廃止 ○ 米価7,030円	○ ルース台風、田畑冠水1,178町 ○ 7.9洪水、水田埋没57町
○ 春播キャベツの輸送制が高い品種の育成開始 ○ 早出し漬物用早生大根の鬆入り現象についての試験(～昭29) ○ 大豆育成系統の早晚播適応性検定試験(～昭31) ○ 牧野改良試験に係る草生改良試験開始 ○ 牧野利用慣行調査(～昭28) ○ 水稲の二毛作に成功	○ 農業試験場球磨試験地開設(人吉市) ○ 茶業試験場球磨分場開設(球磨郡相良村) ○ 水稲秋落改善対策に関する試験(～昭37) ○ 普通期水稲白葉枯病防除試験(～昭28) ○ 普通期水稲原種決定試験(～昭37) ○ 麦類原種決定試験(～昭37) ○ 裸小麦の播種期試験(～昭29) ○ ナタネ原種決定試験(～昭37) ○ ナタネ菌核病防除試験 ○ 山茶の園茶化法、仕立法、施肥管理法、製茶改良等の試験研究に着手	○ 農業試験場天草試験地設置(天草郡本渡町)	1952	(昭27)	○ 県、第2次産業振興計画を発表 ①農業の適地適作 ②町村産業振興計画 ③電源開発 ○ 農業改良普及員、1町村1名配置	○ 麦類間接統制 ○ 米価7,500円	

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1953 (昭28)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期栽培及び水害に関する試験開始 ○ 施肥改善事業に着手 ○ 水稲「農林22号」「旭もち」奨励品種採用 ○ 熊本県主要農作物指定種子生産ほ場等審査規則公布、稲、大豆、雑穀種子生産安定を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶業栽培法策定(改定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 病虫害防除所新設 		<ul style="list-style-type: none"> ○ い業指導所設置(花苧指導所廃止) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県果樹試験場と改称 ○ 果樹試験場の指導によりミカンバエの集団防除実施(小天、河内、松尾地区) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業試験場、桑新品種「改良一ノ瀬」創成
1954 (昭29)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場園芸部と秋津園芸試験地、熊本市刈草町に一括して移転 ○ カボチャ「肥後早生1号、2号」の品種育成 ○ 水稲「ベニセンゴク」「ナカセンゴク」奨励品種採用 				<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回熊本県い業祭の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹試験場玉名分場設置 ○ 果樹試験用化学実験室が建設され、果樹の栄養生理、果樹園の土壌・肥料に関する試験研究を開始 ○ 早生温州ミカン(興津・三保)の試作始まる ○ フドウのH型整枝、ミカン園草生栽培始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業試験場、蚕卵斉一孵化の催青法「暗催青法」創成 ○ 硬化病予防消毒剤「テイワン」開発
1955 (昭30)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八代園芸指導所設置 ○ 麦「シラスヒハダカ」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 品種茶園の造成を基本とした栽培・製造の研究、幼木期間短縮、夏茶の品質改善等基本技術の確立に関する研究へ移行 ○ 茶業試験場球磨分場、球磨茶業指導所となる 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省の集約酪農地域として阿蘇・菊池が指定される 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹試験場天草分場、天草果樹指導所となる ○ 芦北、玉名の各分場を果樹指導所と改める ○ 県果実連設立 ○ 「丹沢」「伊吹」「筑波」県下のクリ地帯に定着 	
1956 (昭31)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県議会で移転問題の論議 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 防災茶園、阿蘇・上益城郡に設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特殊土壌対策審議会、「いもご」改良事業のテストとして混層耕を上村で実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省の集約酪農地域として球磨・芦北が指定される 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通刈の先刈を推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 河内芳野村でカンキツ園のケーブル架設、鹿北村でみかん共同貯蔵庫設置 ○ 県奨励システムを決定、柑橘4系統原木を買上げ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業技術指導所が蚕業指導所に、蚕業技術員養成所が蚕業講習所となる
1957 (昭32)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲早期栽培が本格的普及段階 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 小国町にオーストラリアから乳牛(ジャージー種)98頭導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 除草剤クロロIPCの普及 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹園にミスト機導入始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業試験場、夏作緑肥作物として桑大豆「グラスダウン」創成

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大豆の優秀品種試験相次ぐ ○ 秋大豆「ホウギョク」育成 ○ 大豆の交配時期と授精との関係試験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲早期栽培適応品種選定試験（～昭36） ○ 麦類N適量試験（～昭29） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期水稲原種決定試験（～昭37） ○ 晩期水稲品種比較試験（～昭35） ○ 麦類原種決定試験（～昭35） ○ 甘藷原種決定試験（～昭36） ○ 秋大豆、ナタネ原種決定試験（～昭35） 	1953	(昭28)		<ul style="list-style-type: none"> ○ パラチオン剤全国普及 ○ ボルドー液に代って、イモチ病防除に、水銀剤が急激に普及 ○ 米価8,255円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4.27阿蘇山爆発 ○ 6.26豪雨、田畑の流出埋没8,944町
<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋大豆「アソマサリ」育成 ○ トウモロコシの強稈性に関する試験（～昭34） ○ 飼肥料木や優良野草の牧野導入に関する試験（～昭30） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通期水稲N適量試験（～昭31） ○ 普通期水稲いもち病防除試験 ○ 水稲晩期栽培試験（～昭37） ○ 飼料用ナタネ育成、原種採種（～昭37） ○ 球磨南部土地改良畑地かんがいに関する試験（～昭31） 		1954	(昭29)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県農業協同組合中央会創設 ○ 県農業改良普及事業協議会結成 ○ 熊本県農業会議創設 ○ 人造米工場落成（荒尾市） ○ 授業で病害虫研究（上益城郡乙女小学校） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動力耕うん機普及、犁耕減少 ○ 稲萎黄病大発生 ○ 米価9,260円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9.13 12号台風、田畑の流失埋没280町、冠水1,288町
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大豆国内品種及び外国導入品種の特性調査（～昭34） ○ 大豆褐斑粒に関する試験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶業試験場球磨分場、球磨茶業指導所に改称 ○ カルチ利用簡易麦作法に関する試験（～昭32） ○ サトイモ蓮葉、大吉種導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹試験場天草分場、天草果樹指導所となる 	1955	(昭30)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 米収穫高7,904万石、過去最高 ○ 米穀事前売渡制 ○ 米価9,755円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋大豆「アソムスメ」育成 ○ 早期水稲栽培試験（～昭35） ○ ナタネ直播栽培検討（～昭34） ○ 牧野新墾地に対する牧草適種選定、導入方法に関する試験（～昭33） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲早期栽培二期作に関する試験 ○ ナタネ礫素の効果試験 ○ ナタネ加里の肥効試験（～昭33） ○ 主要果菜、葉菜、根菜類展示栽培（～昭37） ○ 特殊土壌対策審議会、「いもご」改良事業のテストとして混層耕を上村で実施 		1956	(昭31)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 甘夏ミカン登場 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省農業水産技術会議令制定 ○ 米価9,470円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8.16台風農作物被害大
<ul style="list-style-type: none"> ○ 大豆系統適応性検定試験地新設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期跡飼料作物栽培試験（～昭36） ○ 球磨北部（高原台地）土地改良利水計画に基づく現地試験（～昭37） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期水稲の冷床におけるムレ苗の発生に関する試験、早期水稲の硫安施肥試験 ○ 麦跡早期水稲の緑肥施用時期試験 	1957	(昭32)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 金剛干拓完成 ○ 初のミカン共販 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 石川県衛生試験場、玄米からパラチオン検出 ○ 農林省地域農業試験場に技術連絡室設置 ○ 米価9,745円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.26井芹・坪井川洪水、金峰山山津波田畑212町流失、11,742町冠水 ○ 7月豪雨、河内、小天、松尾地区等のカンキツ園の流出、埋没甚

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1958 (昭33)	<ul style="list-style-type: none"> 熊本市上ノ郷町に移転。1係3部4試験地体制、八代農業経営試験場設置(八代郡鏡町) 水稲「トワダ」「タカネニシキ」奨励品種採用 水稲「アキバエ」「信濃モチ3号」「平和もち」認定品種採用 麦「エビスコムギ」奨励品種採用 暖地てん菜試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> 県茶業試験場、ニオイ付き紅茶販売 	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯病の発生確認 	<ul style="list-style-type: none"> フランスから種雄馬1頭(ミニオン号)を導入 	<ul style="list-style-type: none"> 八代農業経営試験場設置(い業指導所、八代園芸指導所廃止、新設の経営は「部」として配置)(八代郡鏡町) い草、い製品の色調統一のため「三原染土」を推奨(淡路島産染土) 天日、穀用乾燥機併用の乾燥法の試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> 県果樹基幹産地を設定 普通温州ミカン「青島温州」導入 三角町でブドウ被覆栽培始まる 熊本県果樹技術者連盟設立 	<ul style="list-style-type: none"> 改良暗催青法の確立、不結繭蚕に関する研究(～昭34)
1959 (昭34)	<ul style="list-style-type: none"> 夏播きキャベツ試交1号、2号育成、普及に移す 		<ul style="list-style-type: none"> 畑土壌線虫の防除に関する研究(～昭43) 地力保全基本調査(～昭52) 土壌病害虫検診員設置 	<ul style="list-style-type: none"> 学校給食牛乳供給事業開始 	<ul style="list-style-type: none"> 倒伏防止網の利用確立(～昭37) 除草剤PCPの試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> 小天、河内のミカン園にミカンナガタマシ集団異常発生 第1回熊本みかんの取引懇談会を小倉、東京で開催 	<ul style="list-style-type: none"> 伝染性軟化病に関する研究(～昭35)
1960 (昭35)	<ul style="list-style-type: none"> 水稲「ヤマトミ」「祝いもち」奨励品種採用 麦「ハンリハダカ」奨励品種採用 西合志町にてん菜研究所支所設置 		<ul style="list-style-type: none"> 稲ウイルス病の伝染機構と防除法に関する研究(～昭44) 	<ul style="list-style-type: none"> 養鶏関係、種畜場から種鶏場として分離(玉名市へ移転) 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫いぐさの第二次乾燥を火力で行う技術が普及 早刈の先刈を推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ミカンナガタマシの集団防除実施 河内、小天のミカン園に異常落葉症発見 「興津早生」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> 県、新養蚕集約振興事業実施(指定市町村へ委託費交付)
1961 (昭36)	<ul style="list-style-type: none"> 水稲短稈穂数型新品種「ホウヨク」が奨励品種、密植多肥稲作に移行、昭42年には27,000ha 水稲「アリアケ」奨励品種採用 水稲「宝」「ナカセンゴク」認定品種採用 白菜軟腐病に関する研究完成 日本てん菜振興会のビートセンターが西合志に完成 		<ul style="list-style-type: none"> 水田病害対象に空中農業散布を始める 	<ul style="list-style-type: none"> 農業試験場阿蘇試験地で、主畜営農確立試験着手 畜産講習所を併設し、講習生の受け入れ開始 スウェーデンからランドレース種豚8頭導入 褐毛和種種雄牛「第五光浦」を繋養 	<ul style="list-style-type: none"> い製品類の輸入が自由化される いぐさ選別機開発による普及指導を開始 	<ul style="list-style-type: none"> クリの計画密植栽培始まる 	<ul style="list-style-type: none"> 施肥改善に関する調査研究、大規模養蚕経営に関する研究、自然上族に関する研究(～昭40)

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期水稲N分施試験（～昭34） ○ サトイモのエグ芋導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 早期水稲の冷床育苗に関する試験、緑肥肥効試験、硫酸分施試験 	1958	(昭33)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 有機ヒ素剤の出現、水稲紋枯病防除法確立 ○ ニカメイチュウにDEP剤が実用化 ○ 高度化成肥料が単肥に代り普及 ○ 米価9,700円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8月大干ばつ、鹿本、天草中心に農作物の被害甚大 ○ 3月大雪、果樹10%減収
<ul style="list-style-type: none"> ○ 生食用スイートコーン品種比較開始 ○ 牧草の高位生産及び利用年限の延長に関する試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲早期栽培二期作に関する試験（～昭35） ○ 水稲早期栽培育苗法に関する試験 ○ 麦類耕耘機による省力栽培試験（～昭37） ○ てん菜栽培法、施肥法試験（～昭37） 		1959	(昭34)		<ul style="list-style-type: none"> ○ イネヨトウムシに、DDT、DEP、ホリドール、エンドリンが、ウンカ・ヨコバイにセビン剤が実用化 ○ 農林省、土壤線虫検針事業等を始める ○ 米価9,715円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6～7月干ばつ、果樹15%減収 ○ 9月台風、カンキツ、ナシ被害
<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲田植機械栽培基準の策定（～昭44） ○ 水稲機械化直播栽培、除草体系化試験に着手 ○ 陸稲ドリル播栽培法試験（～昭37） ○ 麦類省力多収栽培法検討開始 ○ 加エトマト、アスパラガス、ビメント、マッシュルーム、エンドウ等の品種選定試験等耕種法確立試験開始 ○ 大豆嫩莢期の虫害防除試験（～昭36） ○ 子実用トウモロコシ玉交3号奨励品種採用 ○ 子実用トウモロコシ密植多収栽培試験（～昭37） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通期水稲除草剤に関する試験（～昭37） ○ ナタネ草除草、耕耘機利用直播省力栽培に関する試験（～昭37） 		1960	(昭35)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動力耕うん機は30年の840台から35年は6500台となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価9,755円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ ナタネ密植直播栽培試験開始 ○ 加工用スイートコーン品種選定試験、播種期対栽培密度試験、虫害防除試験等実施 ○ 主善営農確立試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通期水稲栽培密度と施肥量試験（～昭37） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乾燥剤利用試験 ○ PCP（尿素）使用法試験（～昭37） ○ 甘藷栽培試験、除草剤試験 ○ 大豆品種比較試験 ○ 水稲二期作試験 ○ 麦跡早期水稲品種比較試験 ○ 早期水稲直播三要素試験 ○ 普通期水稲原種決定、PCP尿素使用試験 ○ 晩期水稲肥効試験 	1961	(昭36)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林技術会議規定（訓令）を設ける ○ 金剛干拓が33年に完成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業基本法公布 ○ 農業構造改善事業促進対策要綱決定 ○ 直交表による多因子計画の研究始まる ○ 米価10,322円 	

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1962 (昭37)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1部5課制に改組、経営部は八代農業経営試験場へ(農機具係は機械部へ) ○ 阿蘇、矢部、球磨、天草試験地を分場に改称 ○ 大豆新品種「アキセンゴク」育成 ○ 水稻「農林22号」「越路早生」「西南8号」認定品種採用 ○ 加工トマトの導入に関する試験(～昭43) ○ 暖地性がツツジの球根生産と促成栽培技術(～昭58) ○ 園芸用ビニールハウスの温度調査(～昭38) ○ 水稻集団栽培の指導始める 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 機械部発足 ○ 7月集中豪雨で有明・不知海魚介類に農業被害、県、除草剤PCPの使用禁止 ○ 農業機械化実験集落事業、泗水町で始める ○ 緩効性肥料、NK化成、試験・普及始まる ○ イネウイルス病に関する試験(～昭44) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産試験場に改称(本館、繁殖研究室、講堂整備) ○ 種畜場天草分場、畜産試験場天草分場に改称 ○ 肉用牛(褐毛和種)若齢肥育試験(～昭38) ○ 飼料検査業務開始 ○ 肉用牛(褐毛和種)若齢肥育試験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ い草倒伏防止網、新除草剤DBN普及始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機構拡充により研究部が果樹、病害、化学部及び菊池分場の3部1分場となる ○ 宇土母樹園を設置 ○ カンキツ園での航空防除試験始まる ○ ブドウ「デラウエア」のGA処理始まる ○ 甘夏の消費地貯蔵始まる(田浦上尾) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県蚕業試験場応用研究部落成
1963 (昭38)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻乾田直播栽培技術の確立(～昭40) ○ 水稻湛水直播栽培技術の確立(～昭47) ○ カボチャ「熊本早生黒皮」を育成 ○ 抑制そ菜、飼料作物導入を前提とした水稻短期栽培法の耕種指針を確立 ○ 水稻「フジミノリ」認定品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動力茶摘機に適する樹型仕立法の研究確立(～昭40) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 河川水の魚事故に伴うPCPの分析 ○ 水田初期低毒性除草剤の普及促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種雄牛牛舎、乳用牛開放牛舎着工(昭40竣工) ○ 種鶏場、養鶏試験場に改称 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 甘夏登録調査開始 ○ 新甘夏(ニューセブン)田浦で発見 ○ 早生温州ミカンのハウス栽培始まる ○ ブドウ吊棚導入(豊野) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県、「新梢さし木法」による自給桑苗共同生産のモデル事業実施 ○ 県、桑萎縮病の恐れがある地域で農業代を補助し「ヒシモンヨコバ」の駆除を実施
1964 (昭39)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八代農業経営試験場が八代支場に、天草分場が天草農業研究指導所となる ○ 麦「ニチリンコムギ」奨励品種採用 ○ プリンスメロンの栽培法確立(～昭44) ○ シクラメンの育苗に関する研究(～昭53) ○ 園芸育苗の簡素化(～昭44) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設栽培土壌の塩類集積試験開始、施設の連作障害回避指針を確立 ○ 玉名市上小田で、大型機械利用栽培技術体系現地実証試験開始 ○ 緩効性肥料・硝化抑制剤試験開始 ○ 水田裏作ハウスの塩類集積に関する研究(～昭43) ○ 不耕起による草地造成に関する研究(～昭44) ○ アスパラガスの栽培と茎枯病の防除法に関する研究(～昭42) ○ 化学部内に草地土壌指定試験地(畜産試験場構内)を開設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産試験場天草分場、農業試験場天草分場及び天草果樹指導所と合併し、天草農業研究指導所畜産部となる ○ 産肉能力検定豚舎、屠場新設 ○ 優良乳用種雄牛(ローマンデールリフレクションアーガス号)カナダから輸入(酪農家の発展に寄与、後に「名誉種雄牛」の栄誉受ける) ○ スウェーデンから雄豚1頭(801オプチョーランダ)導入 ○ 乳用雌子牛の早期離乳育成試験(～昭44) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 広島育成系統の暖地選抜開始 ○ 農業試験場八代支場に改称、経営部は農業試験場本場に統合 ○ 全国のいぐさ作付面積が史上最高の12,300haとなる ○ 原草が輸入自由化される ○ 「さざなみ」を奨励品種採用 ○ 「二条並木植」を推奨 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温州ミカンに摘果剤使用 ○ クリキウムシ大発生、国の緊急防除法の指定を受け、果樹試験場で防除体系確立 ○ 晩白柚初販売 	
1965 (昭40)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻「シラヌイ」を奨励品種採用 ○ 水稻「黄金錦」認定品種採用 ○ 大豆「ヒゴムスメ」奨励品種採用 ○ 日本晴の認定品種採用と普及(矢部分場)(～昭45) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 摘採期短縮のための早期成園化(～昭42) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 磔耕実用化試験完成 ○ 水稻に関する晩期追肥、施肥法に関する研究(～昭42) ○ アスパラガス茎枯病試験完成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳用牛ルーズバーン施設、繁殖用開放豚舎、大型乾草調製施設設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ い業生産振興会設立 ○ 苗床、本田での除草剤適用試験、実用化試験開始 ○ イグサ「さざなみ」を奨励品種採用 ○ 量表の生産、日本一になる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 甘夏の摘果板採用、冷温貯蔵始まる ○ ミカン園で除草剤使用 ○ 天水・田浦町で航空防除実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑の索孔性害虫の浸透性農業による新しい駆除法開発

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇試験地、阿蘇分場に改称 ○ 大豆国内品種及び外国導入品種の特性調査 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 球磨試験地、球磨分場に改称 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天草試験地、天草分場に改称 ○ 種畜場天草分場、畜産試験場天草分場に改称 ○ デナボン水和剤水田土壌処理試験 	1962	(昭37)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県下初のライスセンターが天明町下内田に設置 ○ 暖地てん菜栽培面積、130haとなる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価11,405円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.7~7.8県北部豪雨 ○ 水田507ha流失、996ha冠水
<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋大豆「アキヨシ」「アソアオアカリ」を育成 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 天草果樹指導所、本渡市中山口から現在地(天草市本渡町)へ移転 ○ ポンカン等の移植試験(～昭39) 	1963	(昭38)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 兼業農家、全農家の4割を越す ○ 米価12,575円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5月長雨、農作物被害甚大 ○ 8.14~8.22、球磨川水系中心に豪雨、田畑の流失埋没450ha、冠水11636ha ○ 極東寒波により寒害発生(県内陸部ミカン樹枯死園多発)
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場天草分場、畜産試験場天草分場及び天草果樹指導所が統合され、天草農業研究指導所となる(作物、果樹、畜産の3部制) ○ 磯野系統(普通温州)の栽培基準確立(～昭42) 	1964	(昭39)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸馳(13.3ha)、栖本(27.3ha)干拓事業完了 ○ 農薬の空中散布80haで実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省植物ウイルス研究所新設 ○ 米価14,137円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇地域における初夏播きキャベツ栽培基準の策定(～昭42) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稻湛水直播栽培技術体系確立、球磨地方を中心に昭42年に24,000haに普及 ○ 火山灰土破砕転圧工法による開田が錦町、相良村で始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ みかんヤノネカイガラムシ地域発生予察の開発(～昭46) 	1965	(昭40)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県農業経営改善同友会結成 ○ 航空防除推進要綱・要領制定 ○ 稲作に深刻な冷害 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟県白根農協、全国初のカントリーエレベーター完成 ○ 集束型動力刈取機の普及が始まり、稲の収穫作業に利用 ○ 米価6,550円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.28豪雨で錦町被害。6~7月県下全域豪雨、被害甚大 ○ 8月台風15号、被害甚大

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1966 (昭41)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田植機利用による水稲省力移植栽培技術の確立(～昭47) ○ 水稲「ハマミノリ」奨励品種採用 ○ 水稲「ミホニシキ」認定品種採用 ○ 麦「成城17号」認定品種採用 ○ 果菜類の接木栽培技術の確立(～昭45) ○ スイカ、メロンの輸送改善(～昭44) ○ 園芸ハウス栽培の施肥改善(～昭45) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹園経営における規模拡大の実態と展開方向に関する調査研究(～昭42) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和牛子牛育成方法改善に関する試験 ○ アメリカ、フランスからアンガス、ヘレフォード、シャロレー種雄牛各1頭導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ9系統育成(～昭50) ○ 「熊本2号」育成 ○ 球磨地方でいぐさ栽培が始まる ○ 生いぐさからの人工乾燥法を確立(～昭42) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「丹沢」「伊吹」「筑波」奨励品種採用 ○ 早生温州ミカンの夜蛾防除に電灯照明法導入(芦北町) ○ 河内町でミカンの収穫運搬にコンテナ使用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 蚕業試験場が鹿本郡植木町に移転 ○ 桑樹皮の発酵精練法について ○ 桑の萎凋防止に関する研究、萎縮病に関する研究 ○ 吐蚕強化剤「シルクロン」の開発 ○ 簡易飼育台の開発
1967 (昭42)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畑作部を新設、同時に畜産試験場の甘藷隔離試験地を包括 ○ 稲の安定多収栽培法確立試験(昭40～)で700kg/10a達成 ○ 畑作部新設、八代支場経営部を本場に移す ○ キャベツ試交3、4号育成 ○ 水稲「ヤエホ」認定品種採用 ○ 大豆の品種育成(～昭45) ○ 落花生の生育経過に関する研究(～昭43) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 益城町でPCBA剤(プラスチック)障害野菜発見、対策に追われる ○ 非水銀系農薬によるいもち病防除試験 ○ キュウリウイルス病の伝染機構と防除法に関する研究(～昭44) ○ カーネーションの肥培に関する研究(～昭44) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肉用牛産肉能力検定舎新設 ○ 耕起及び不耕起造成草の施肥感応(～昭44) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ い草加工部新設 ○ 「熊本1号」育成 ○ 七島イ栽培試験終了 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「興津3号」奨励品種採用 ○ クリに高温障害発生 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑萎縮病が「ヒシモンヨコバイ」の媒介によることを解明、防除策確立
1968 (昭43)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「サイゴクモチ」奨励品種採用 ○ 水稲「日本晴」認定品種採用 ○ 夏小豆の安定多収栽培法(～昭48) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶の生産基地化を図るための革新栽培法の策定 ○ 球磨茶業指導所、出向茶園造成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開田地帯の野菜生育障害をマンガノ過剰症と解明 ○ カーネーションの肥培に関する研究(～昭44) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高原圏における草地農業の技術体系確立に関する研究(～昭45) ○ 乳牛防暑試験(～昭46) ○ 細型ストロー及び活性ビタミン添加新希釈液(F-18)による受胎試験(～昭46) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県のいぐさ栽培面積が3,880haとなり、岡山県を抜き、全国1位となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有明町で紅甘夏発見 ○ 天草地方のミカンに黄斑性落葉病多発 ○ 熊本ミカンがフィリピン・マニラに初めて輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大規模養蚕技術体系の確立
1969 (昭44)	<ul style="list-style-type: none"> ○ カーネーションの生長点培養試験開始 ○ 水稲「レイホウ」「カグラモチ」認定品種採用 ○ 水不足による干害対策としての水稲晩植栽培試験(矢部分場)(～昭54) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 球磨茶業指導所、農業試験場球磨分場と合併し、球磨農業研究指導所となる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜病害虫発生予察実験事業開始 ○ コガネムシ類の発生生態と防除に関する試験(～昭47) ○ BHC、DDTの使用規制 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 哺乳中子牛の肥育効果について(～昭45) ○ 暖地型牧草の適草種・品種選定試験(～昭52) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ い草加工研究棟落成 ○ いぐさに対する緩効性肥料の使用技術の開発 ○ 先刈機の普及が始まる ○ 球磨地方に織機導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ フドウ「巨峰」種、普及し始める ○ 「米沢」「青島」推奨品種採用 ○ 熊本ミカン、ソ連へ輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県畜検定所、熊本市健軍町小峯に落成
1970 (昭45)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 園芸部と畑作部を統合し菊池郡西合志町に移設、園芸支場として発足、化学部の草地土壌試験地、畜産試験場に移管 ○ 稲作転換に関する試験(～昭47) ○ 水稲「日本晴」「レイホウ」「カグラモチ」奨励品種採用 ○ 水稲「ツツカ」認定品種採用 ○ 麦「オマセムキ」奨励品種採用 ○ 畑作野菜の水利用技術確立(～昭50) ○ カーネーションの無病苗生産技術(～昭62) ○ 水稲採種栽培の省力安定良質化に関する試験(矢部分場)(～昭48) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本館、製茶試験室、分析室等新築 ○ 60キロ型煎茶製造法確立(～昭47) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業残留分析機器整備 ○ 宇土市走湯で緑斑モザイクウイルス(CGMMV)罹病 ○ キュウリ発見 ○ 熊本県に分布する「ニガ土」の研究(～昭48) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産試験場阿蘇支場、草地畜産高等研修所設置(阿蘇郡阿蘇町) ○ 農業試験場化学部の草地土壌指定試験地、畜産試験場阿蘇支場に移管 ○ 草地畜産に関する試験研究が本格的に始まる ○ 鶏に対する炭化水素酵母給与試験(～昭48) ○ 原種豚舎新設、原種豚整備事業によりオランダ、デンマーク、アメリカから種豚40頭導入(～昭48) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場八代支場にい業講習所を併設 ○ 熊大公衆衛生教室は、い草農家、業者にじん肺症状が多いと発表 ○ いぐさ株分け機の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温州ミカンにソバカス病発生 ○ 甘夏ミカン「ニューセブン」登録 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホルムアルデヒド感識種の開発

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 低濃度海水の灌水実用化試験（～昭45） ○ ポンカンのスアガリ防止対策試験（～昭45） 	1966	(昭41)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 田植機の普及始まる ○ 暖地てん菜栽培国庫補助打ち切り(昭37年には130haあった) ○ 芦北(25ha)・津奈木・阿村干拓完成 ○ 県が、一日田植え協力運動提唱 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イモチ防除用非水銀剤(カスミン、ポルドー)、新カーバイト剤が実用化 ○ 米価7,140円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6～8月大干ばつ、農作物被害24億円 ○ 米の収量369,600トン、史上最高
<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲品種「あそみのり」の育成（～昭47） ○ 農林省指定雑穀育種試験を熊本県農業試験場畑作部に移管 ○ 山間高冷地向水稲育種事業を九州農業試験場と共同事業で開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場球磨分場、球磨郡上村に移転 ○ 水稲肥料三要素試験開始（～現在） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 河内晩柑（ジュシーオレンジ）に関する調査研究（～昭51） ・生態的採取適期の確認 ・貯蔵技術の開発 ・後期落果の抑制 ・誘引制枝法の確立 	1967	(昭42)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 干ばつによる被害甚大、農作物被害178億円 ○ 年末大雪 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲密植促進のため市町村に助成 ○ 県10ヶ所に農業気象観測所を設置 ○ 畑作地帯開発のため、農業用深層地下水調査を行い、約4,000haを開田 ○ 自脱型コンバイン、初めて普及 ○ 米価7,797円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 干ばつにより県内果樹産地被害 ○ 異常寒波、県内陸部に大雪
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 球磨茶業指導所、上村に出向茶園造成 ○ サトイモ「石川早生」マルチ栽培始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポンカンスアガリ防止対策試験（～昭46） 	1968	(昭43)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業構造改善事業は山場を迎える ○ 農業関係試験研究の基本方向と研究目標を作目別に策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省、残留農薬安全使用基準を発表 ○ 葯培養によるイネの半数体作出に初めて成功 ○ 米価8,256円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 山間高冷地における稚苗移植栽培試験（～昭46） ○ 初夏播きキャベツ品種選定試験（～昭45） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 球磨茶業指導所、農業試験場球磨分場を廃止し、併合、球磨農業研究指導所となる（作物部、特産部の2部制） 		1969	(昭44)		<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省、総合農政の一環として「稲作転換対策実施基準」を決定 ○ 自主流通米制度 ○ 米価8,256円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6月末～7.10豪雨 ○ 梅雨明け後1ヶ月の降水量4.5mm
<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産試験場阿蘇支場設置、肉用牛直接検定及び乳用牛後代検定等実施 ○ 草地土壤部が農業試験場から移管、土壤調査の実施、採草放牧地の肥培管理等について試験 ○ 高原花きに関する試験開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畑地かんがいに関する試験開始（～昭51） ○ 県茶業協会球磨支部が発足 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポンカン施肥基準の策定（～昭52） ○ 河内晩柑果樹生態的採取適期の確認（～昭49） ○ 河内晩柑貯蔵技術の開発（～昭52） 	1970	(昭45)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県衛生部、荒尾市水田からカドミウム汚染米を検出 ○ 横島干拓の試作始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米の生産調整開始 ○ 中央生産調整推進協議会、150万トンの米の減産割合を決める、減反面積割合11.2% ○ 農林省、牛乳汚染防止のため、BHCの稲作への使用を全面禁止 ○ 農薬6社はBHC、DDTの製造中止決定 ○ 米価8,272円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4～7月長雨被害、208,000ha、193億円 ○ 8.14～15 台風9号、農作物を含めた被害57億円

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1971 (昭46)	<ul style="list-style-type: none"> ○ リンドウの優選系統選抜試験開始 ○ 水稲「アカネモチ」奨励品種採用 ○ 落花生のマルチ栽培による生産安定技術(～昭48) ○ 園芸ハウスの環境制御法(～昭47) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶樹品種の選定、防霜法、イモゴの改善、整枝、剪枝法等の試験研究開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カドミウムの水稲吸収抑制剤試験 ○ 県下の重金属汚染調査開始 ○ 荒尾市のカドミウム土壌汚染の細密調査開始 ○ 主要作物農薬残留分析開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 原豚豚舎新設、アメリカからハンブシャー種種豚15頭輸入 ○ 種豚の選抜法に関する試験(～昭56) ○ 草地畜産高等研修所第一期生入所 ○ 牧野土壌の天然供給力の解明(～昭63) ○ 耕起造成草地における土壌改良資材・追肥リン酸の施肥効果(～昭54) ○ 牛凍結精液の精子数別受胎試験(～昭47) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場八代支場本館落成 ○ 熊本県い業協会が設立 ○ 泥染め機の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カツラマルカイガラムシ県北に発生 ○ ナシ「幸水」の普及 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウイルス病と稚蚕用桑の関係解明 ○ トンネルハウスを改良した簡易蚕室 ○ 農業の蚕に対する残毒日数
1972 (昭47)	<ul style="list-style-type: none"> ○ カーネーションのウイルスフリー化苗試験開始 ○ 水稲「トドロキワセ」認定品種採用 ○ プリンスメロンの果面汚点症防止対策(～昭50) ○ キクの栽培法改善(～昭61) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 有機塩素系農薬禁止による代替農薬の選出 ○ イネわい化病の原因究明とその対策(～昭50) ○ ツマグロヨコバエの薬剤抵抗性に関する試験(～昭52) ○ キシュウスズメノヒエの施肥、土壌水分感応に関する試験(～昭49) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然流下式ふん尿処理牛舎、種雄豚舎、直接検定豚舎新設、酪農組立試験、豚人工授精普及推進事業開始 ○ 西南暖地畑作地帯における高度集約酪農技術(～昭51) ○ 混播草地の窒素と加里の施用割合(～昭51) ○ 乳用種雄牛の繋養廃止(家畜改良事業団へ移譲) ○ 牛精液は液状から凍結へ全面切替え 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ刈り取り機の普及始まる ○ いぐさ大型乾燥機の普及始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在地に移転(宇城市松橋町) ○ クリタマバチ異常発生、県下クワリ地帯に一斉防除実施 ○ セミノール等導入 ○ カンキツの果実防腐剤としてトップジン散布始まる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高原地帯における桑栽培技術の確立、蚕室及び蚕具消毒剤の研究及び開発、人工飼料に関する研究、阿蘇火山被害防止に関する研究(～昭50)
1973 (昭48)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 作物部内に技術連絡部門設置、組織拡大と行政との連携に対応 ○ 水稲「ツクシバシ」「あそみのり」認定品種採用 ○ 矢部地区総合農地開発事業による開拓畑地の地力増強と生産性向上のための地域複合農業技術の確立(矢部分場)(～昭63) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 化学部が、化学第一部と化学第二部に分離 ○ イネわい化病対策確立 ○ 非水銀系農薬による水稲種子消毒法確立 ○ スイカの葉枯れ症対策の一部確立 ○ ニガ土の研究完成 ○ 土壌心土破砕作孔機実用新案登録 ○ 有機物導入による施設栽培土壌と地力増強に関する研究(～昭50) ○ 有機物施用と水利用による土壌線虫の防除法(～昭54) ○ 火山灰土壌における施設野菜の施肥改善(～昭56) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳用雌牛のサイレイジ給与による育成試験(～昭50) ○ 採卵鶏の経済寿命延長のための飼養技術(～昭52) ○ 糞尿処理試験施設設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ イグサシムシガ発生予察法、防除法の確立 ○ いぐさ収穫作業の省力体系化試験開始(～昭52) ○ いぐさ貯蔵におけるポリ袋の使用効果確認(～昭52) ○ いぐさ新製品の開発(～昭53) ○ いぐさ本田除草剤にクロメトキシニル剤を選定 ○ 量表に日本農林規格(JAS)ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 玉名果樹指導所、芦北果樹指導所を廃止、菊池分場を統合、天草指導所は天草農業研究所に統合、宇土母樹園を果樹育種部と改称 ○ 総務課・常緑果樹部(果樹部を改称)、落葉果樹部(菊池分場を統合改称)を設置 ○ 統廃合の結果、1課5部(常緑果樹・落葉果樹・育種・病虫・化学)及び河内試験地となる ○ 川野夏橙の収穫時期と貯蔵性について ○ ミカンジュース給食スタート 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 春蚕期における桑の収量予想法 ○ 夏秋期における桑の収量予想法

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
○ ハクサイ標高差別生態試験（～昭47） ○ レタスマルチ栽培に関する試験（～昭48）			1971	(昭46)	○ 生産調整目標、54,900トンで前年の2倍 ○ 荒尾・第一農協保管の政府買上げ米13トンにカドミウム汚染米として凍結 ○ ハクサイ、キャベツ大暴落 ○ 県下の牛乳もBHC汚染が著しい	○ 食管法関係法令改正を決める、予約限度制導入 ○ OPEC原油値上げ決定 ○ 冷害、病害虫、台風による不作のため、47年度の生産調整数量を230万トンから200万トンに緩める方針 ○ BHC、DDT、全面使用禁止を閣議決定 ○ 国が今後の研究目標を「環境保全と両立し得る商品生産農業の確立」とする ○ 米価8,522円	○ 6.18天草、7.21～22県中南部に大雨 ○ 台風19号県南部被害 ○ 阿蘇谷2年続きの冷害 ○ 台風19、23号でクリ被害
○ 阿蘇郡一の宮町へ移転			1972	(昭47)	○ 荒尾・大牟田のカドミウム汚染の原因を究明する広域合同調査始まる ○ 横島干拓は減反政策で、水稲栽培ができなくなった ○ 土づくり運動開始 ○ 天草上島、山津波で大災害	○ 農林省、農業団地育成の基本要綱決定 ○ 農林省、日本列島改造論に関して、農村総合開発整備構想提示 ○ 農用地の荒廃が進み、農用地の買占めが盛んとなる ○ 米価8,954円	○ 米の収量320,100トン史上最高 ○ 晩霜による果樹被害 ○ 集中豪雨による果樹産地（主に天草）被害
○ 高冷地における水稲省力栽培に関する試験（～昭50） ○ 夏秋キュウリ品種選定試験（～昭52） ○ 春播ニンジン品種選定試験（～昭52）		○ 甘夏採取期の改正（～昭50）	1973	(昭48)	○ 荒尾市関川流域水田、ほぼ全域がカドミウムで汚染 ○ 県は、カドミウムによる汚染米について ①地域内政府保有米売却ストップ ②農家保有米の交換、配給指導 ③カドミウム吸収抑制資材投入 ④土壌汚染防止対策地域指定 ⑤三井金属に対して煤煙の規制強化要請などの行政指導 ○ 米の予約売り渡し申し込み限度数量を237,900トン、転作達成目標を9,858haに決定 ○ 農業粗生産額22%の急成長	○ 石油危機、物資の買占めが起こる ○ 産米収量1,207万トンで史上最高 ○ 米価10,301円	○ 予想収穫量 水稲324,100トン 陸稲 8,600トン ○ 5.8県下全域集中豪雨

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1974 (昭49)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲銘柄米の確立に関する研究(～昭51) ○ 土付、中苗田植機栽培法確立 ○ 麦「カワサイゴク」奨励品種採用 ○ 大豆「アキヨシ」「ヒュウガ」奨励品種採用 ○ 半促成スイカの着果安定技術確立(～昭51) ○ 作付体系による土壤線虫の防除法(～昭54) ○ 野菜に対する家畜糞尿の施用法(～昭51) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ スイカの葉巻き炭素病の要因解明 ○ ダイコン根腐症(根腐病)の発生原因と薬剤防除(～昭52) ○ 硫化物に起因する強酸性土壌生成の機作と改良対策(～昭50) ○ 施設園芸ほ場の地下水排除技術の開発(～昭51) ○ もみ殻充填簡易暗渠作孔機の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産公害研究部門と草地土壤指定試験地を統合し、新たに環境部を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大型乾燥機による生いぐさからの乾燥技術試験開始(～昭51) ○ い草収穫量、71,000トン(全国の62%) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 吐蚕自動飼育装置設置
1975 (昭50)	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリンスメロン界面汚点症対策の一部確立 ○ 水稲「ミナミニシキ」「クレナイモチ」奨励品種採用 ○ 麦「ゴガツコムギ」奨励品種採用 ○ タバコ跡地における大豆の晩播栽培法(～昭52) ○ トマト「ゆうやけA」の栽培技術確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 土壤改良、肥培管理技術等上質茶生産技術、農薬安全使用、嗜好茶の多様化に対する製造法の研究に移行 ○ 被覆原料製造法確立(～昭54) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇降灰試験開始 ○ ショウガ根茎腐敗病の防除法確立(～昭56) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇支場で周年放牧試験始まる ○ 放牧草地に対する窒素・加里の施用割合(～昭58) ○ 腐熟化物の腐熟度現地判定法(～昭53) ○ 肉用種雄牛の集中管理開始 ○ 畜産環境対策試験施設設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「熊本1号」奨励品種採用 ○ 火力乾燥いぐさの製織時の取扱方法「加湿」技術の開発 ○ くまもと県農協い製品市場が開設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 摘果剤散布後の温度要因と摘果効果 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高原地帯における適応桑品種選抜
1976 (昭51)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲省力栽培における作物的診断技術の確立(～昭53) ○ 暖地多雨地域における米麦一貫農法確立(～昭55) ○ 稲麦を主体とする合理的作付体系の確立(～昭53) ○ スイカー飼料作物体系における障害回避(～昭54) ○ 水稲「ニホンマサリ」「ミズホ」認定品種採用 ○ スイカの急性萎凋症防止対策(～昭54) ○ 「日本晴」「レイホウ」を米の特別銘柄に指定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 西九州における蒸性玉緑茶製造技術の確立(～昭54) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇谷大型圃場整備による強酸性土壌対策確立 ○ ハダニ類の生態解明と省農薬防除確立試験(～昭56) ○ 促成トマト萎ちょう病(レースJ3)の総合対策に関する調査(～昭56) ○ 省農薬栽培を指向した病虫害の防除合理化試験(～昭56) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 土壤改良不良田におけるいぐさ栽培法(～昭53) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 摘果剤散布後の温度要因と摘果効果 ○ 河内試験地を廃止 ○ 熊本県果樹育種研究会の設立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稚蚕人工飼育の普及 ○ 横伏せ式速成密植桑園に関する研究 ○ 古条挿木法の実用化研究 ○ 暖地における多回育種機械化養蚕の技術確立研究 ○ 暖地多回育種蚕の軟化病防除に関する研究
1977 (昭52)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 麦「あかぎニ条」奨励品種採用 ○ 暖地促成イチゴ「はるのか」のりレー栽培における高冷地一貫育苗技術体系確立(～昭54) ○ 山間高冷地における水稲中苗機械移植栽培確立試験(矢部分場)(～昭57) ○ 稲作、史上2位 		<ul style="list-style-type: none"> ○ カドミウム汚染防止対策の大型現地試験開始(荒尾市元村) ○ 有機物連用が土壌及び作物に及ぼす影響(～昭58) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業大学校新設に伴い、草地畜産高等研修所は農業大学校付属畜産高等研修所に改称 ○ 粗飼料利用による経済的肉牛(あか牛)肥育技術体系確立試験(～昭53) ○ 豚のPSE筋発生要因と予防法確立試験(～昭57) ○ 第2次原種豚整備事業により、アメリカ、オランダ、デンマークからランドレース、ハンブシャー種豚34頭導入(～昭54) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさの八月苗障害の防除技術試験開始(～昭56) ○ 「くまもと畳表の織り方」の公表 ○ いぐさ移植機の改良実用化試験開始(～昭62) ○ 耕種基準の改訂 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川野夏橙の着葉着果相に関する試験 ○ 川野夏橙のステムピッチング病の被害対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 歩行型桑葉刈取機の作業体系確立試験(～昭55)

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇火山噴出ガス及び降灰による水稲の被害解析調査 ○ 阿蘇谷基盤整備田の強酸性土壌改良対策試験 ○ 夏秋トマト品種選定試験（～昭52） 			1974	(昭49)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 横島干拓完成 ○ 転作目標39,300トン、8,820ha ○ 荒尾市浦川地域でカドミウム汚染米検出 ○ 出稼ぎ実態8,112人(48年より3,167人減) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価14,156円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇火山灰による農作物被害2億円
<ul style="list-style-type: none"> ○ 阿蘇谷基盤整備田生産安定対策試験 ○ 阿蘇山降灰対策に関する試験（～昭51） ○ リンドウに関する試験（～平14） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリンスメロンが導入され急速に普及 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ビワ第3次育成系統適応性検定試験（～昭57） 	1975	(昭50)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 荒尾市菜切川流域地域も土壌汚染 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲収量(全国平均)473kg/10a史上最高 ○ 1975農業センサス、総農家数4,953,000戸(45年より8.3%減)、就業人口7,907,000人(23.6%減)、専業農家616,000戸(27%減) ○ 米価15,570円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 6.24～6.25集中豪雨、井芹川、坪井川中心 ○ 阿蘇山に噴石
<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲中苗機械移植試験（～昭54） ○ イタリアンライグラスの多収性拡大試験（～昭56） ○ 夏秋ピーマンの品種選定試験（～昭52） 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 河内晩柑誘引整枝法の確立（～昭57） ○ 温州ミカンから中晩柑への高接更新実証（～昭55） ○ 中玉文旦「大橋（パールカン）」の推挙（～昭55） 	1976	(昭51)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稲作転換目標面積7,420ha(前年比10.3%増) ○ 荒尾市関川流域地域の土壌汚染は三池製錬所と正式見解 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価16,572円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1.24熊本地方で異常低温 ○ 熊本地方の1月の降水量9.5mm異常乾燥のため野菜高値 ○ 6.23大雨 ○ 7.19台風9号、天草で洪水
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高冷地野菜の雨よけ栽培技術指針（～昭63） ○ スカシユリの繁殖法試験（～昭54） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜作試験（プリンスメロン、レタス等）開始 		1977	(昭52)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稲作転換目標11,700ha、事前限度数量232,300トン 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農林省、米の過剰基調防止のため、昭53から生産調整強化の方針 ○ 米価17,232円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1.8阿蘇にド大雪 ○ 1月異常寒波、野菜高値 ○ 5.3～5の洪水、農産物の被害大

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)							
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門	
1978 (昭53)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機械部に経営部門を置き、部名を経営部に変更 ○ 水稲「コガネマサリ」奨励品種採用 ○ 水稲「宮崎もち」認定品種採用 ○ 麦「シロワセコムギ」「ダイセンゴールド」奨励品種採用 ○ 落花生タチマサリ・ナカテユタカの栽培特性(～昭62) ○ 接木促成トマトの品質向上対策(～昭62) ○ 太陽熱利用による施設内土壌改善及び病害防除 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然仕立法栽培基準策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業機械部が経営部に変更 ○ 地力保全基本調査の取りまとめを行い「地力保全基本調査総合成績書」の刊行及び県内全域の土壌図作成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産講習所廃止 ○ 飼料作物に対する厩肥施用量試験(～昭60) ○ 濾材組合せによる豚舎汚水浄化試験(～昭58) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ い業講習所を閉所 ○ 「きよなみ」奨励品種採用 ○ いぐさ田生産力向上のための排水対策試験開始(～昭55) ○ いぐさに対する家畜排泄物の施用効果の確認 ○ いぐさ乾燥施設における騒音対策技術の開発 ○ いぐさハーベスト登場 ○ すぐり機械化収穫作業体系の確立 			<ul style="list-style-type: none"> ○ 稚蚕人工飼料パイロット事業により県内3ヶ所で人工飼料育スタート
1979 (昭54)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営部内に農業土木部門が設置され、試験研究開始 ○ 転換畑における麦類二期作栽培技術の確立(～昭56) ○ 水稲「ニシホマレ」奨励品種採用 ○ 麦「アサカゼコムギ」奨励品種採用 ○ 転換畑初期の湿潤畑における大豆の安定生産技術(～昭56) ○ 太陽熱水封マルチの利用技術確立(～昭55) ○ 芝に関する研究(～昭58) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栽培製造部、応用研究部の二部体制となる ○ 県立農業大学校の設置に伴い茶業講習所を廃止 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業土木部門設立 ○ 苅北発電所の運転に備えて農作物重金属調査始まる ○ 弱毒ウイルス利用によるトマトモザイク病防除試験(～昭56) ○ 太陽熱利用による野菜病害虫防除試験(～昭57) ○ 大豆、ウリ類に対するリン酸過剰蓄積の影響(～昭57) ○ 転換畑初期の湿潤畑における大豆の安定生産技術(～昭56) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 霧状散水による乳牛舎の冷却試験 ○ 牛乳品質、特に無脂固形分含量向上技術の開発に関する研究(～昭57) ○ 県産地鶏「熊本種」による良質肉利用に関する研究(昭54～) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ田の後期発生ノビエの防除法(～昭62) ○ 染土配合による量表の品質改善(～昭60) ○ いぐさの品質向上と効率的乾燥方法の確立 ○ 土壌環境不良田におけるいぐさ栽培法の確立 ○ いぐさ乾燥機のスノコの高さと網目径について公表 ○ 第2次オイルショックでいぐさ乾燥用燃料に混乱 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリ、ナシ、ブドウ、カキ、モモ、ウメ、キウイフルーツの優良品種の選定 ○ 果樹園芸講習所閉所、新設の県立農業大学校に統合 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 暖地における多回育機械化春蚕技術策定 ○ 古条マルチング挿木の実用化 	
1980 (昭55)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 超多収稲栽培技術の確立(～昭62) ○ 暖地多雨地域におけるハトムギ栽培技術の確立(～昭60) ○ 麦「あまぎ二条」奨励品種採用 ○ 土壌線虫の伝播経路の解明、田畑輪換による土壌線虫の制御(～昭58) ○ 高原畑作地帯における作付体系確立試験(矢部分場)(～昭59) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 耕地ブロック地下水位制御(～昭60) ○ 農作物有害動物発生予察事業開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 機構改革により1課4部(総務課・大家畜部・養豚部・飼料部・環境部)になる ○ 肉用牛産肉能力間接検定舎新設 ○ 豚の繁殖性向上対策試験(～昭56) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 変色いの発生が多くなり、試験開始(～昭59) ○ いぐさの八月苗立枯症の原因究明と防除法確立 ○ いぐさ田における用排水管理技術の確立 ○ 整経振興会(量表の経系を扱う企業の団体)が発足 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 殺虫剤と除草剤の混合散布法 	
1981 (昭56)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水田裏作小麦の品質向上と安定生産技術(～昭60) ○ 飼料用青刈稲の栽培技術の確立(～昭59) ○ 転換畑大豆の豆腐・味噌加工適性(～昭58) ○ 大豆「アキシロメ」「フクユタカ」育成、奨励品種採用 ○ 水稲「コンヒカリ」「シンレイ」認定品種採用 ○ 水稲白化症の発生原因と対策(矢部分場)(～昭57) ○ スイカ、メロン栽培環境改善(～昭62) ○ 簡易施設利用による花き生産安定技術(～昭58) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第35回全国お茶まつり、熊本県で開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カドミウム土壌汚染防止対策試験完了し、防止対策工事(関川流域地域)に着手 ○ 矢部地域に水稲白化症発生、原因究明と対策の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 種雄牛待機牛舎、分娩豚舎、ふん尿処理施設新設、気密サイロ新設 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チキリの「ヒズミ」による量表のたるみ改善試験開始(～昭62) ○ いぐさ田生産力向上のための排水対策と晩期水稲との結合に関する試験が完了 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川野夏橙系統分化と品種改良の方途について ○ ブドウ「巨峰」の高品質生産安定技術 ○ 「カンキツの品種特性」を発表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 稚蚕人工飼料育と蚕病予防法 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
○ 夏秋カボチャの栽培法試験（～昭55）			1978	(昭53)	○ 県立農業大学校開校	○ 農家所得の農業依存度は30%を割る ○ 転作面積439,500ha、米の確定収穫量12,589,000トン ○ 米価17,251円	○ 5月、阿蘇、上益城降水量は平年の1%以下 ○ 熊本、真夏日が続く
			1979	(昭54)	○ 小国町、大根の本格出荷始まる	○ 農家減少にプレキがかかる ○ 転作面積472,000ha ○ 米政府買入銘柄格差導入 ○ 米価17,279円	○ 阿蘇山降灰による農作物被害9億9,896万円、白川のアユ全滅 ○ 2月下旬、突風と集中豪雨による農業被害6億2,421万円 ○ 6.22～23 県北部の豪雨、野菜を中心に4億3,367万円の被害 ○ 6.26大雨、農業を中心に被害
○ 良質長稈品種の作柄安定栽培法試験（～昭60） ○ 阿蘇火山降灰対策に関する試験（～昭60）	○ 水田利用再編対策に伴い大豆・麦類試験開始 ○ 転作野菜としてハウスメロン、キュウリ、ブロッコリー、スイカ等の試験に取り組む	○ ビワハウス栽培基準の確立（～昭60）	1980	(昭55)	○ 花き生産は切花中心に順調な伸び、昭55年推計46億円、全国11位 ○ 省エネルギー時代となり、八代地方はビニルハウスに代わりガラス温室が増加	○ 米価17,674円	○ 1.9阿蘇に大雪、4.16忘れ雪 ○ 6.20、7.2、8.30 県北部集中豪雨 ○ 8月の日照時間は平年の51%、史上最底。長雨、冷夏による高冷地野菜被害は3億3,000万円
○ 転換畑大豆の安定多収栽培法試験（～平2）	○ 特産果樹（ブルーベリー、リンゴ）に関する試験開始 ○ クリ品種系統適応性試験開始	○ 甘夏から他の中晩柑への高接更新実証（～昭61）	1981	(昭56)	○ 野菜価格は好調 ○ 湿田の転作作物として試みた飼料用稲（エサ米）の作柄良好 ○ 転作目標19,290ha、転作率24.6%	○ 米価17,756円	○ 2.26寒波、農作物被害300ha、2億5,400万円 ○ 6.30県北で集中豪雨 ○ 台風10号、8～10月の大雨で果樹被害

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1982 (昭57)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 転換畑における大豆の作期前進による高位生産安定技術(～昭62) ○ 水稲「黄金晴」認定品種採用 ○ 半促成ハウスメロンの有望品種「ホームランスター改良系」 		<ul style="list-style-type: none"> ○ ミナミキイロアザミウマ対策試験実施 ○ 転換畑における大豆の作期前進による高位生産安定技術(～昭62) ○ クリタマバチの導入天敵チュウゴクオナガコバチの放飼 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豚の系統造成開始、牛の受精卵移植試験開始 ○ 褐毛和種去勢牛の肥育過程における枝肉構成及び肉質の変化(～昭58) ○ 肉用繁殖牛の育成期における栄養水準が生産性に及ぼす影響(～昭58) ○ 豚の閉鎖群育種試験(優良系統豚造成試験)(～平2) ○ 転換畑の飼料作物周年機械化作業体系確立(～昭60) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 八代支場、い草乾燥の省エネルギー対策として、太陽熱利用研究を行い、成果を公表 ○ 家畜ふん分離液の有効利用技術の開発 ○ (社) 県い業経営安定基金協会が発足 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カンキツ育成システムの適応性検定 ○ 「宮内伊予柑」に対するジベレリンの着花抑制 ○ キウイフルーツの高品質生産安定技術 ○ 晩生カンキツ類の新防除体系確立 ○ 阿蘇郡蘇陽町にブルーベリー導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1～2齢人工飼料育法
1983 (昭58)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 促成イチゴのポット育苗技術 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 魚骨(フィッシュボーン)型暗渠の開発(～昭62) ○ メロンがんしゅ病の発生生態と防除対策(～昭64) ○ プリンスメロンの異常発酵果に関する研究(～昭61) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豚のプロスタグランジンF2αによる分娩誘起試験(～平2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「くまもと豊表」を証明する県証系が導入される(～平2) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「田中早生」の特性と極早生温州ミカン特性比較 ○ ミカン園における有機物施用効果の解析 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古条利用による密植桑園の造成法
1984 (昭59)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 低コスト稲作技術体系の確立(麦跡湛水直播栽培)(～昭62) ○ 水稲「コシヒカリ」奨励品種採用 ○ 水稲「ニシヒカリ」「ミネアサヒ」「ヒヨクモチ」認定品種採用 ○ 簡易ハウス利用によるハウレンソウの作型・品種選定(～昭61) ○ スイートソルガム品種の選出と生産力の評価(～昭61) ○ 高冷山間地における水稲良質品種の安定多収栽培法確立(矢部分場)(～昭63) ○ 田畑輪換による大豆を基幹とした転換畑の総合的生産安定技術(～昭63) ○ 黒皮カボチャの品種育成 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 侵入害虫イネミズゾウムシ天草に初発、試験調査 ○ イネミズゾウムシの発生生態と防除対策(～昭63) ○ 水稲におけるスクミリンゴガイの被害と防除に関する試験(～昭63) ○ スイカ産地におけるミナミキイロアザミウマの発生消長と防除技術(～昭61) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分娩・育成豚舎、選抜豚舎新設 ○ ペールキャリアー導入 ○ 飼料分析指導センター設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 放射線照射による変異拡大と組織培養技術確立(～継続) ○ 県育成の「熊本6号」を「くまがわ」と名付け、奨励品種に採用 ○ 変色い発生要因の解明と品質向上技術の確立 ○ いぐさの省エネルギー乾燥技術の検討と省エネルギー施設等の標準範例の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 甘夏ミカンの省資源型貯蔵技術の確立 ○ ドウドウ「巨峰」の高品質生産安定技術 ○ 早生ナシの腋花芽利用による生産安定技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1～3齢人工飼料における蚕病予防 ○ 1～3齢人工飼料、4～5齢自動飼育機の飼育体系
1985 (昭60)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 促成イチゴ「とよのか」の品種特性 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 耕地ブロック地下水位制御技術確立 ○ 暗渠目詰まり除去技術の開発(～昭63) ○ イネもみ枯細菌病の発生要因の解明と防除法(～昭62) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 第1回受精卵移植技術講習会を開催 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 「今村温州」の二重接ぎに関する試験 ○ 樹体や果実の生理生態とフィガロンの効果 ○ クリの整枝・せん定等による高品質生産安定技術 ○ 温州ミカンに対する被覆燐硝酸加里の施用効果の試験 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 桑園内放鶏技術

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏秋青首ダイコンの品種選定と栽培法（～平成） ○ ブロッコリーの品種選定と栽培法（～昭63） 			1982	(昭57)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鹿本町の花施設で県下最大規模のガラス温室完成。17,688㎡ ○ バイオテクノロジー研究推進会発足 ○ 昭56農業粗生産額、3,646億6,000万円、伸び悩み 	<ul style="list-style-type: none"> ○ チョコレート、ビスケット関税引下げを決定 ○ 米穀配給制度廃止 ○ 米価17,951円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4.9忘れ雪、農作物に5億9千万円の被害 ○ 7月中、下旬2回にわたり集中豪雨 ○ 7月上旬までは空梅雨だったが7月全体の熊本市の雨量は1,261mmと史上最高
<ul style="list-style-type: none"> ○ 銘柄米品種「ミネアサヒ」「コシヒカリ」の作柄安定栽培技術診断指針の確立（～昭63） ○ 陸稲奨励品種「ミサトハタモチ」の採用 ○ 防災営農対策（降灰・風害・雨害）施設の環境改善対策（～昭63） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶品種の地域適応性試験を開始 ○ 茶協球磨支部をくま茶振興会と改称、発足 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 甘夏から他の中晩柑への高接更新実証（～昭61） 	1983	(昭58)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 免田町の射場久義、大豆生産日本一 ○ 上村の県営満願寺ダム完成、水防とかんがいに利用 ○ 米作況指数105 ○ 熊本県バイオテクノロジー開発研究会発足 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 72品目の関税引下げ ○ 水田利用再編第3期対策(昭59～)で、初めて安い加工原料米導入方針決定 ○ 米価18,266円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4.4県北部、降ひょう被害 ○ 8.5熊本气象台37.0℃、史上5番目を記録 ○ 夏は昭和42年以来の大干ばつ
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高冷地における水の有効利用に関する調査（野菜作：～昭62） 			1984	(昭59)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業関係試験研究機関の整備に関する調査研究報告(熊本県行政改革審議会農業試験研究部会)により機構改革移転が軌道に乗る ○ 経営規模2ha以上の農家は14.2%と伸びる ○ 昭58年の粗生産額3,687億円 ○ 野菜産地地位向上のため、昭65年目標で野菜低温流通体制整備に取り組む ○ 熊本市調査で強度の酸性雨が続けていることが判明、2月は最高のPH3.3を記録 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昭53年米に臭素残留判明、端境期の米不足防止のため、韓国に貸しつけていた米の返還を求める ○ 大津市で、世界湖沼環境会議開催 ○ 転作目標574,000ha ○ 米価18,668円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1.19大雪、農作物被害、241億4,000万円 ○ 8.21台風10号、稲倒伏、ビニールハウスが破れる
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高冷地における水の有効利用に関する調査（水田作：～昭62） 			1985	(昭60)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「旭1号」の作付を復活 ○ 農業粗生産額3,928億円、野菜の伸びが大きい ○ 農業研究機関整備準備室設置 ○ 第1回肥後ビーフフェア 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲の作況105、収穫量1,173万トン ○ 61年減反60万haに ○ 1985年農業センサス、農家人口の17.3%が65才以上、高齢化が目立つ ○ 米価18,668円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1.14寒波 ○ 居座り梅雨で被害 ○ 7.9～10県中北部で集中豪雨 ○ 12月大寒波、中晩柑果実を中心に被害87億円

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1986 (昭61)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域特産銘柄米安定生産技術の確立(～昭63) 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 九州東海大との共同研究でメロン新病害腫瘍病の病原体発見 ○ メロン類の異常発酵原因究明、対策完了 ○ 荒尾市関川流域地城土壌汚染防止対策工事が完了し、関連する試験調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホールクロップサイレージの繁殖雌牛への合理的給与技術(～昭63) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ乗用ハーベスターが本格普及開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 青島温州の珠心胚実生由来「白川温州」育成発表、商標名「金峰」と命名 ○ 西日本における転換柑橘類果実の需要拡大のための加工法の開発 ○ 川野ナツダイの施肥法の確立 ○ 温州ミカン園における秋季ポリマルチの影響 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホルマリン代替蚕葉の実用化
1987 (昭62)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「旭1号」奨励品種採用 ○ 麦「シロガネコムギ」「ニシノゴールド」奨励品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> ○ パソコンによる県内土壌図表示システム開発 ○ 暗渠目詰り除去装置開発 ○ パンプの水耕法ほぼ完成 ○ トマトCMVの弱毒ウイルスの開発(～平3) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 牛の体外受精技術確立試験、牛の双子生産における産子の能力発現技術開発試験(～平2) ○ 草地土壌指定試験地閉鎖 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ本田の後期発生イネ科雑草の防除法の開発 ○ 染土の配合による豊表色調改善技術の開発 ○ い草作付け5,950ha、全国シェア81% 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川野夏橙系統分化と品種改良の方向について ○ 川野夏橙の品質向上に関する研究 ○ ハウスモモの高品質安定生産技術 ○ 温州ミカンに対するリン酸の施肥量と樹体栄養 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 細織度蚕品種の飼育条件と性状 ○ 平坦地における桑の密植栽培法
1988 (昭63)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 麦「ニシノチカラ」奨励品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲移植期におけるスクミリンゴガイの防除技術確立 ○ 被覆尿素を用いた水稲の全量基肥施用技術の確立(昭57年～) ○ 水稲側条施肥技術の確立 ○ 水稲におけるBB肥料の有効性検証 ○ 暗渠目詰り除去技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 褐毛和種去勢牛の肥育期間短縮に関する研究(～平元) ○ 乳用牛の夏期におけるコンプリートフィード調製給与試験(～平3) ○ トウモロコシとソルガムの混播栽培(～平6) ○ 受精卵移植による肉用種雄牛(褐毛和種)が初めて誕生、後の「光重ET」号 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「熊本2号(しらぬい)」を品種登録申請 ○ いぐさ作業用ハーベスター機械化作業体系の経済性の公表 ○ 「簡易チキリヒズミ計」開発による豊表のたるみ防止技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3倍性カンキツの育成試験 ○ ハウスモモの高品質安定生産技術 ○ カンキツそうか病に対する薬剤耐性菌発生 ○ 微生物による土壌中の窒素のコントロールが果実品質に及ぼす影響 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 天蚕の飼育 ○ ビニールハウス利用による桑苗生産
1989 (平元)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業試験場園芸支場、蚕業試験場、八代支場園芸部、矢部分場を農業研究センター農産園芸研究所に統合 ○ 促成スイカ栽培の安定化と品質向上 ○ 水稲「ヒゴノハナ」「ヒノヒカリ」「山田錦」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センター茶業研究所として上益城郡御船町に新築移転 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヤノネカイガラムシに対する導入天敵の定着 ○ ハウス栽培に適應できる魚骨(フィッシュボーン)型暗渠 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県農業研究センターに統合、畜産研究所に改称 ○ 阿蘇支場は草地畜産研究所に改称 ○ 養鶏試験場は畜産研究所に統合 ○ 天草農業研究指導所畜産部を統合 ○ 牛の受精卵凍結融解技術の普及技術化 ○ 飼料添加剤利用による良質サイレージ調製技術確立(～平4) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センターに統合、い業研究所に改称 ○ 県のいぐさ作付面積がピーク6,630ha ○ いぐさ-水稲の長期連作に対するイタリアンライグラス作付によるいぐさ休耕の効果の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センターに統合、果樹研究所に改称、常緑果樹部、落葉果樹部、病虫化学部の3部体制になる ○ 高糖系温州ミカン「白川」品種登録 ○ 胚様体、苗条原基の利用法に関する研究 ○ 越年完熟栽培によるネーブルオレンジの品質向上技術の確立 ○ ナシ「幸水」のトンネル栽培技術 ○ ヤノネカイガラムシの総合防除 ○ 果樹園における根圏微生物の有効利用法 ○ パラソルカットによる樹形改造 ○ 南関郷農協、鹿北農協、ミカンをカナダに輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センターに統合、農産園芸研究所となる

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 促成イチゴの早進多収技術（～平2） ○ ハウス早熟キュウリの品種及び栽培法（～平2） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 露地野菜（カリフラワー）試験を実施 		1986	(昭61)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昭60年産米の市町村単収は、嘉島町が九州一、熊本県が1～12位独占（九州農政局） ○ 熊本市で国際バイオテクノロジーセミナー開催 ○ 農業粗生産額3,820億円 ○ 昭62年減反目標22,970ha ○ 「熊本・明日へのシナリオ～県土デザイン編」公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農水省と全農は、自主流通米の卸売業者に対する価格を、売れ行き不良の銘柄米中心に1割前後の値下げ決定 ○ 米価18,668円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.13県南部に集中豪雨 ○ 7.24水俣市77mm/hの大雨
<ul style="list-style-type: none"> ○ 春まき青首ダイコンの有望品種と播種日 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋どりブロッコリーの長期どり栽培法 		1987	(昭62)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県産米、消費地で不評、主要品種ミナミニシキ ○ 転作野菜栽培急増 ○ 水稲作況95（低温と台風12号の影響） ○ 12月農業研究センター本館着工 ○ 「新農業自立運動」提唱 ○ 温州ミカン「金峯」市場流通 ○ 熊本畜産流通センター施設落成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米国務長官と通商代表、コメ市場解放を要求 ○ 米価17,557円、消費者米価も値下げ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7.15～21熊本市550mm以上の降雨 ○ 農作物被害3億7,400万円
<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲側条施肥に関する試験（～平4） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ パラソルカットによるクリの樹形改造 ○ ナシに関する試験を開始 		1988	(昭63)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食品加工研究所発足 ○ 矢部開港竣工 ○ 「熊本県農産物輸入自由化対策に関する基本方針」公表 ○ 「くまもと'88食と住のまつり」開催 ○ 水稲作況108、史上最高の単収 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガット理事会は落花生、雑豆の2品目を除いた牛、豚肉調整品、プロセスチーズなど10品目の輸入制限をガット違反とし、自由化を勧告 ○ ワン米農務長官とヤイター通商代表は3月末で期限が切れる日本の牛肉オレンジの輸入割当制度の撤廃を促し、日本が自由化を示さない時には、直ちにガットに提訴することを確認(3.22) ○ 米価16,743円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 5.3記録的豪雨
<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センター高原農業研究所と改称 ○ 高冷地域におけるコシヒカリの中期生育診断技術及び夏秋どりニンジンの適品種・生産安定技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センター球磨農業研究所と改称 ○ モモに関する試験を開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センター天草農業研究所と改称（果樹部門、作物園芸部門） ○ 畜産部は農研センター畜産研究所に統合 ○ ミニトマト品種「ミニキャロル」の特性 	1989	(平元)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業研究センター開所 ○ 米ブランド名「熊本はなしのぶ・三度のときめき」公表 ○ 「ユーユーフーズ」設立 ○ 農業技術情報システム稼働 ○ 新銘菓「あまなつ賛葉」発表（県産甘夏使用） ○ 農業粗生産額4,000億円突破 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価16,743円 	

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1990 (平2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「ユメヒカリ」「ホンユタカ」奨励品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> ○ スイカ緑斑モザイクウイルスに対する弱毒株の作出(～平5) ○ イネ紋枯病とセジロウカの要防除水準の策定(～平5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 肉用牛直接検定試験が草地畜産研究所から畜産研究所に移管 ○ 養鶏研究施設完成 ○ 米国・カナダからスーパーカウ導入 ○ 豚「ヒゴサカエ301」育成公表 ○ 鶏「新肉用熊本コーテン」育成公表 ○ 西南暖地における高品質牛乳の低コスト生産試験(～平4) ○ 清浄豚肉生産技術確立試験(～平6) ○ ウインドレス鶏舎における間欠照明(～平6) ○ 自然浄化法による家畜糞尿処理実用化技術(～平3) ○ 受精卵における性別別技術開発試験(～平6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国のいぐさ指定試験地が広島県から本県い業研究所に移る ○ 県育成「しらぬい」品種登録及び奨励品種採用 ○ いぐさ本田における冬期雑草及び後期発生イネ科雑草の防除法の開発 ○ 新規殺虫剤導入によるイグサシラネシガの防除技術の開発 ○ 畳表の経系材質の違いによる「たるみ」発生とその防止対策技術の開発 ○ 畳表のマダラ変退色の発生要因とその防止法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県におけるカンキツの品種導入に伴う地域特性検定と適地性 ○ 熊本県における散在柿の品種と特性調査 ○ カンキツのウイルス健全母樹育成 ○ カンキツ「不知火」デコボンの育成 	
1991 (平3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏どりホウレンソウの栽培法 ○ イチゴの夏期低温処理による花芽分化促進 ○ 水稲「クヌヒカリ」奨励品種採用 ○ 水稲「ゆめみのり」認定品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> ○ ウイング振動式心土破砕機 ○ イネばか苗病の種子消毒法の確立 ○ 側条処理によるイネミズゾウムシの省力防除 ○ キャベツ根コブ病の防除技術の開発 ○ い草乾燥機による初乾の適正乾燥技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ SPF豚研究棟完成 ○ 褐毛和種の生時体重に及ぼす要因に関する検討 ○ 飼料の機能特性利用と適正管理方式によるヘルシー鶏肉の生産(～平5) ○ α-リノレン酸を高濃度に含んだ鶏卵・鶏肉の生産(～平6) 一特許：ロゼα卵 ○ 暖地汎用化水田における飼料作物新草種を用いた輪作体系技術確立(～平5) ○ 凍結精液広域利用事業 ○ 肉用牛改良情報システム確立、調査試験(～平4) ○ 体外受精技術を活用した良質胚多量確保技術の開発(～平6) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさの効率的乾燥技術と騒音対策技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カキ「刀根早生」の生産安定と軟化防止技術 ○ モモの平棚仕立て ○ 新和ジュシー、品種登録される 	
1992 (平4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ メロン隔離床栽培法 ○ アリウム「丹頂」の促成栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほ場の地下管理方法が特許登録(茶業研究所と櫛大電) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 暗渠機能を利用した冬期における施設土壌の急速除塩 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県下初SPF豚の誕生 ○ 幻の地鶏「天草大王」復元化開始(アメリカからランシャン種を輸入) ○ 褐毛和種の産肉性に及ぼすビタミンAの影響(～平5) ○ くまもとアートポリス構想に参加している11の畜舎ほか建物完成 ○ 微生物資材による低コスト悪臭防止技術(～平5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高級畳表用「合成繊維経糸」利用技術の公表 ○ 天然イグサと化学製品いぐさの材質特性の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ クリの整枝・せん定等による高品質生産安定技術 ○ デコボンの無加温ハウス栽培 ○ 早生モモの好適生育基準の指標化 ○ カキ「刀根早生」の生産安定と軟化防止技術 ○ カンキツモザイク病の侵入阻止対策 ○ クリシギゾウムシの発生推移と発生地域 ○ 台風による落葉の程度が根域に及ぼす影響 ○ カンキツ「豊福早生」「肥のあけほの」品種登録出願 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月播き青首ダイコンの標高別有望品種選定 ○ 高原地域における被覆資材利用9月どりレタスの栽培技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中山間地における銘柄米「ヒノヒカリ」の栽培特性 ○ 傾斜地クリ園の樹形改造法 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲奨励品種「キヌヒカリ」、インゲン品種「ライトグリーン」の特性 ○ 冬どりレタスにおけるべたがけ資材の利用 	1990	(平2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業粗生産額4,016億円 ○ ファームフェスタ開催(農業公園) ○ 第9回全国ホルスタイン共進会熊本大会開催 ○ 熊本型有機農業、土づくり減農薬運動スタート ○ 花の水温輸送試験の実施 ○ 「ゴルフ場における農薬の安全防除指針」策定 ○ 熊本型有機農産物ブランド名「有作くん」に決定 ○ テコポン初売り(東京大田市場957円/kg) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際花と緑の博覧会(大阪) ○ 自主米価格形成機構 ○ 米価16,500円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4月阿蘇噴火 ○ 7月豪雨、阿蘇、菊池大被害
<ul style="list-style-type: none"> ○ 建物・施設の整備拡充 ○ 水稲「乳苗」の育苗省力技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 初秋どりアールスメロンの有望品種 ○ 低樹高クリ栽培の優良結果母枝の選び方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スプレー系カーネーション「エリザベス」、施設用ピワ「長崎早生」の特性 ○ 低しょう系ポカンカの完熟栽培 	1991	(平3)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県農業公園「カントリパーク」開園 ○ 酪農ヘルパー制度発足 ○ 三角産温州ミカン、シンガポールへ初輸出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カンキツ果実、牛肉輸入完全自由化 ○ 米価16,392円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 台風17,19号農作物被害605億円(内果樹195億円) ○ 雲仙普賢岳火砕流
<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲奨励品種「南海109号」について ○ 高原地域におけるハウレンソウの連続栽培 ○ 被覆による夏秋レタスの生育障害防止技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ヒノヒカリの作期拡大による品質安定と低コスト ○ クリの筑波28号「紫峰」の特性 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲認定品種「西南89号」について ○ カンキツ新品種「津之香」の特性と地域適応性 	1992	(平4)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業情報オンラインシステム稼働 ○ 「乳酸甘夏」開発、販売開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新しい食料・農業・農村政策(新政策)の方向公表 ○ 米価16,392円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 台風10号被害

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1993 (平5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「ヒノヒカリ」の作期拡大 ○ パッシブ水耕栽培 ○ タラの芽のふかし栽培 ○ ハナシノブ等の電照と加温による切花の周年栽培 ○ 回転培養による無病苗量産化 ○ 水稲「ヒノクニオトメ」「つぶより」「よかほなみ」奨励品種採用 ○ 水稲「なつのたより」認定品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期持続型育苗箱施薬剤による水稲病害虫の体系防除 ○ 暗渠の目詰まり除去法と暗渠パイプ立ち上がり管 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 近交退化防止策として、あか牛のジーンバンク事業開始 ○ 草地畜産研究所の整備完了 ○ 褐毛和種雄牛「光重ET」の選抜 ○ 農業大学校規則の一部改正により、付属畜産高等研修所を廃止、農業大学校阿蘇校舎を設置 	<ul style="list-style-type: none"> ○ い業研究所整備完了 ○ 大量泥染め(縦染め)方式における使用上の留意点の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ナシ樹における台風の被害実態と対策 ○ カンキツのマンガン過剰症に及ぼす殺菌剤の影響 ○ 非破壊によるミカン糖度測定法 	
1994 (平6)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 野菜、花のDNA組み換え試験開始 ○ シュコンカスミソウの隔離床栽培 ○ 麦「チクゴイズミ」「アサカゴールド」奨励品種採用 ○ 麦「イチパンボン」認定品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製茶のFAシステム導入による自動化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ マイコン制御による用排水の自動化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県下初のETによる子豚誕生 ○ 豚新技術開発利用試験(外科的及び非外科的手法による豚胚移植の検討)(平6~) ○ 周年放牧による肉用牛の低コスト生産 ○ アートポリス参加の畜舎群、94年度日本建築学会賞受賞、平成6年度通商産業省選定グッドデザイン施設に認定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ本田における冬期広葉雑草の防除法の開発 ○ いぐさの泥染め作業における「染めむら」防止対策技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県育成極早生温州ミカン「豊福早生」、「肥のあけほの」品種登録及び特性調査 ○ 無加温栽培における極早生温州ミカンの栽培適応性 ○ 「不知火」の品種特性と生産安定技術の確立 ○ 「清見」の簡易被覆による高品質果実生産技術の確立 ○ ナシ「幸水」の好適生育基準とその誘導技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 密植用条桑収穫期を利用した年間10回の飼育に対応する年間条桑収穫体系の確立(~平8)
1995 (平7)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 21世紀に向けた省力、低コスト稲作(兼用管理機による水稲播種、防除) ○ トルコギキョウの周年栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 簡易被覆による一番茶の生育促進と品質向上 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 湛水式溶液栽培装置の開発 ○ 抵抗性打破系統サツマイモネコブセンチュウの発生確認 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県種雄牛管理センターが畜産研究所内に設立 ○ 海外の輸入精液を用いた第2次系統豚造成開始 ○ 褐毛和種雄牛「光玉波」、「波丸ET」の選抜 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ機械移植における生産安定のための先刈方法の公表 ○ いぐさの栽培特性と物理的特性の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「不知火」の安定生産と品質向上 ○ 「不知火」新梢葉での疫病類似症の発生原因と軽減対策 ○ ハウスモモの平棚仕立て栽培技術 	
1996 (平8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「森のくまさん」「夢いずみ」品種登録出願 ○ スイカの糖度測定システム ○ スイカのセル成型苗利用 ○ イチゴの省力育苗 ○ 水稲「峰の雪もち」認定品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 近紫外線除去フィルムを利用したマメハモグリバエの防除技術 ○ 低価格の深井戸孔内モニターシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 褐毛和種雄牛「光長」、「波豊」の選抜 ○ 80周年記念式典 ○ 特許「家禽飼料用配合物及び該配合物を用いる家禽の飼養方法」登録 	<ul style="list-style-type: none"> ○ デザインシステムによるいぐさ壁掛けの開発 ○ イグサ「有明3号(ひのみどり)」品種登録出願 ○ いぐさ移植機を中心とした高品質生産安定技術の確立 ○ いぐさのサンプル選別と茎の品質特性の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カンキツの胚乳培養と薬培養 ○ 「青島温州」の珠心胚実生変異と品種選抜 ○ カキ、スモモの優良品種の選定 ○ 「不知火」(デコボン)の施肥改善 ○ 自然通気による果樹園の土壌改良法 ○ ピワの生産安定技術(低樹高整枝) 	
1997 (平9)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「ヒヨクモチ」「あきげしき」「森のくまさん」「夢いずみ」奨励品種採用 ○ 水稲「山田錦」認定品種採用 			<ul style="list-style-type: none"> ○ クローン牛誕生(受精卵クローン)、クローン牛作出技術核移植技術導入 ○ 種牛の産肉能力予測 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ本田における春期雑草防除の開発 ○ いぐさ原草の色調変化とその対策技術の開発 ○ 織機の高速化に対応した畳表の加工技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県の中晩生カンキツ生産状況と育成系統の特性 ○ 高糖系温州ミカンのシートマルチ栽培による高品質安定生産 ○ 階段畑かんきつ園の営農モデル(傾斜地の防除、運搬の省力化) 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高原地域における夏秋ホウレンソウの品種選定 ○ 暖房機導入による夏秋トマトの作期幅拡大 ○ 切花として利用可能な野の花 ○ ハナシノブの電照栽培、鮮度保持 	<ul style="list-style-type: none"> ○ タラ芽のふかし法 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「なつのたより」による早期水稲の収穫早進化 ○ ミニトマト新品種「スーパーサンチェリー」「サンチェリーエキストラ」の特性 ○ 河内晩柑の寒冷紗被覆による無核果技術 ○ 「不知火」の無加温栽培などのビニール被覆適期 	1993	(平5)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県総合計画「ゆたかさ多彩生活創造くまもと」、県農業計画公表 ○ 県緊急農業農村対策本部設置 ○ 第47回全国お茶まつり熊本開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ガットウルグアイラウンド合意 ○ 米価16,392円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 台風6, 7, 13号、長雨、日照不足により農作物に大きな被害 ○ 水稲大凶作(作柄国:74、県:77)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 高原地域における超促成イチゴの花芽分化、ランナー発生促進技術及び促成・超促成イチゴの電照効果 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究本館、作業棟、ほ場の整備完了 ○ 白川温州、「不知火」(デコボン)の研究 ○ 大橋の授粉樹(河内晩柑)の導入による品質向上 	1994	(平6)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県農業関係試験研究推進構想改訂 ○ 地域別農業計画策定 ○ 蚕業指導所廃止 ○ 農業研究センター整備完了 ○ 水稲作柄戦後最高(国109、県115) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価16,392円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 梅雨明け後記録的な高温、少雨。昭和42年を上回る大干ばつ(果樹被害77億円)
<ul style="list-style-type: none"> ○ 火山灰流入土で客土効果 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 簡易被覆による一番茶の生育促進効果 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲認定品種「峰の雪もち」について ○ スイートコーンのトンネル栽培での播種期と有望品種 ○ 「津之香」の果実の貯蔵方法 ○ 天草地域の施設用早生モモの品種選定 	1995	(平7)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県家畜市場の完成 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウルグアイラウンド農業合意による米の部分自由化(ミニマムアクセス)スタート ○ 新食糧法施行 ○ 米価16,392円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲新品種「南海131号」の特性 ○ 高原地域におけるホウレンソウの軽作業安定連続栽培及びリーフレタス・ホウレンソウの組合せによる連続栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ナシ「幸水」を中心に予備枝を多様したせん定法が広まる ○ 錦町でモモのトンネル栽培開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「峰の雪もち」の安定栽培法 ○ わい性インゲン有望品種「MX-65」の特性 ○ 施設ビワ低樹高整枝法 ○ 天草東南沿岸地域のビワ適地診断 	1996	(平8)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ミカン非破壊精度測定システム導入(JA熊本市) ○ 第1回熊本花まつり 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 米価16,392円 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 夏秋トマトの全量元肥施用方法及び幼苗接木に適した台木品種選定、接木方法 ○ 高冷地域におけるイチゴの省力安定育苗、定植前マルチ栽培及び「北の輝」の夏秋どり露地栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ○ トンネルハウスナシの台風時の落果軽減技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カンキツ「不知火」の安定生産のための収量構成 	1997	(平9)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県立農業大学校創立20周年 ○ 水稲新品種ネーミング発表会(森のくまさん) ○ 「デコボン」が全国統一ブランドに ○ いぐさ・畳表の価格下落 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食料・農業・農村基本問題調査会「中間とりまとめ」公表 ○ 米価16,217円 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月大雨(熊本降雨量800mm)

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
1998 (平10)	<ul style="list-style-type: none"> メロン「サカエ秋」「サカエ秋冬」育成公表 イチゴの高設栽培 豆類牧草ヘアリーベッチをマルチとして利用した夏秋雨よけトマト栽培 水稲「バンバンザイ」認定品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> 近赤外分光光度計による茶生葉の品質評価法 	<ul style="list-style-type: none"> 天敵(ゴマダラカミキリ、チリカブリダニ、オンシツツヤコバチ)利用による害虫防除 ダゾメット粉粒剤によるショウガ根茎腐敗病の効果的な防除 天敵を利用した夏秋トマトの防除体系の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 褐毛和種種雄牛「第四光重」、「第五光重」の選抜 放牧酪農における乳質安定化 	<ul style="list-style-type: none"> 県育成「ひのみどり」奨励品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> モモ施設栽培における被覆時期決定のための低温要求量 ゴマダラカミキリの微生物防除法 ミカンキイロアザミウマの生態と防除 クリタマバチの天敵による防除法 「豊福早生」「肥のあけぼの」のシートマルチによる果実品質向上 	<ul style="list-style-type: none"> 農産園芸研究所生物資源部の一業務となる
1999 (平11)	<ul style="list-style-type: none"> 麦「ニシノホン」奨励品種採用 麦「ミサトゴールド」認定品種採用 		<ul style="list-style-type: none"> 農業散布を低減できる冬春トマトのオンシツコナジラミ防除法 トマト黄化葉巻病を確認 	<ul style="list-style-type: none"> 乳用子牛の超省力ほ乳技術 低コスト簡易曝気装置による豚尿汚水の臭気低減 	<ul style="list-style-type: none"> 高級量表に向く「ひのみどり」の加工特性の公表 高品質量表製織のための技術的な要因の解明 いぐさ本田における省力的な除草剤利用法の開発 「ひのみどり」使用ブランド量表「ひのさらさ」発表 	<ul style="list-style-type: none"> 樹形改造と園地改造による傾斜地カンキツ園の省力機械化生産技術 クリ「利平」の生産安定技術 露地モモの平棚仕立て栽培技術 土壌改良資材「MSP」の温州ミカンへの施用効果 日本ナシ「新高」における側枝更新法と省力袋掛け作業 カンキツ「肥の豊」品種登録出願 	<ul style="list-style-type: none"> 実質的な業務終了
2000 (平12)	<ul style="list-style-type: none"> 奨励品種に採用された二条大麦「ニシノホン」の特性 蛍光ランプ利用によるいちご電照栽培の低コスト化 ジベレリン処理によるわい性インゲンの増収技術 水稲「いただき」奨励品種採用 水稲「レイホウ」認定品種採用 水稲「森のくまさん」品種登録 バイオテクノロジー研究施設整備 		<ul style="list-style-type: none"> 水稲における食味向上のための施肥技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> 褐毛和種種雄牛「第十六光重」の選抜 高品質牛肉生産のためのビタミンAのコントロール方法 	<ul style="list-style-type: none"> 「ひのみどり」専用染土の適正使用技術の開発 高級量表に向く「ひのみどり」の加工特性の公表 量表、生しいたけ、ねぎが緊急輸入制限対象監視品目となる 	<ul style="list-style-type: none"> 珠心胚実生変異系極早生温州ミカン「豊福早生」「肥のあけぼの」に対する早期成園化技術 加温栽培による「不知火」の生産安定と品質向上 	
2001 (平13)	<ul style="list-style-type: none"> 水稲「秋音色」、ナス「ヒゴムラサキ」品種登録出願 	<ul style="list-style-type: none"> 水稲育苗箱を利用したチャの省力化栽培 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本型新園芸用ハウスの開発 	<ul style="list-style-type: none"> 高品質肉用鶏「天草大王」復元 集約輪換放牧と運動スタンションを組み合わせた放牧育成牛の省力管理 	<ul style="list-style-type: none"> 55℃定温乾燥技術体系によるいぐさの品質向上 イグサ「ひのみどり」品種登録 緊急輸入制限(セーフガード)200日間(4.23~11.8)暫定発動 	<ul style="list-style-type: none"> カンキツ「肥のあかり」、「肥のさやか」、「肥のあすか」品種登録出願 「不知火」の珠心胚実生変異とカンキツ新品種「肥の豊」の育成 光センサー選果機導入に向けた温州ミカンの品質保証果実生産技術 クリ、ナシ、モモの優良品種の選定 カンキツ「不知火」の果皮障害の発生要因と対策 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
	○ ナス早熟栽培に適する有望台木	○ 「不知火」のジベレリン処理による生理落果防止	1998	(平10)	○ 農業研究センター10周年記念式典 ○ 県地方振興局構想 ○ い業経営緊急支援対策を開始 ○ 高原の夏秋いちご「北の輝」普及へ ○ 堆きゅう肥の広域流通・利用が始まる ○ 県育成温州ミカン「豊福早生」「肥のあけぼの」初出荷 ○ 「七城のこめ」が全国コメ食味会で二度目の日本一に	○ 米価15,805円	
○ 水稲奨励品種「北陸179号」の特性		○ 河内晩柑の後期落下防止技術	1999	(平11)	○ くまもと未来国体開催 ○ 「くまもと21農業振興運動」スタート	○ 食料・農業・農村基本法施行 ○ 米の輸入関税化 ○ 米価15,528円	○ 台風5, 18号により農作物に大きな被害
○ 蛍光ランプ利用によるイチゴ電照栽培の低コスト化	○ 裸麦「イチバンボンシ」の適正栽培法	○ ジベレリン処理によるわい性インゲン増収技術 ○ ボンカンのシートマルチ栽培法	2000	(平12)	○ 県総合計画公表 ○ インターネット上に農業研究センターホームページ開設 ○ 10地域振興局が発足 ○ 「阿蘇らくのうパーク」オープン ○ 全国認定農業者サミットinくまもと2000開催 ○ 農業研究センター「体細胞クローン牛を父とする子牛が生まれた」と発表	○ 宮崎県、北海道で口蹄疫発生 ○ 米価15,104円	
○ 高冷地疎植栽培「コシヒカリ」の品質を改善する施肥方法 ○ 夏秋トマト長期どり栽培に適した誘引及び遮光方法 ○ サツマイモ導入による高原地域ダイコン栽培の高収益輪作体系	○ 秋摘み茶生産のための茶園管理及び製茶法 ○ 早生ナシ「幸水」の予備枝利用による生産性向上		2001	(平13)	○ 牛海綿状脳症で牛の緊急調査 ○ 全国赤牛サミット開催（熊本市） ○ 野菜価格急落等で県野菜振興協会が危機突破大会開催	○ 日本で最初のBSE発生 ○ 農産物検査民営化 ○ 米価14,708円	○ 熊本市で最高気温36.9度、35度超が連続15日の最長記録

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
2002 (平14)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 露地野菜栽培の窒素負荷評価に有効な点検表 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 葉種油粕で成分調整した牛ふんベレット堆肥の肥効と経営評価 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 死亡牛の体細胞によるクローン牛誕生 ○ 九州山口初の凍結胚移植による子豚誕生 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ「ひのみどり」DNAによる識別技術を開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高糖系温州ミカン「白川」の徒長枝芽かきによる着果安定 ○ 温州ミカンのシートマルチ栽培によるβ-クリプトキサンチン含量の変化 ○ 加温ハウス栽培における極早生温州ミカン「豊福早生」「肥のあけぼの」の特性 ○ ブドウ「巨峰」、「ピオーネ」の無核化処理と肥大促進技術 ○ 晩生ナシ「新高」の超高収益栽培技術 ○ 肥効調節型肥料による露地温州ミカンの省力的施肥法 ○ 極早生温州ミカン新品種「肥のあかり」開発 ○ カンキツ「肥の豊」品種登録 	
2003 (平15)	<ul style="list-style-type: none"> ○ イチゴ「熊研い548」品種登録出願 ○ 水稲「秋音色」認定品種採用 ○ 麦「ニシノカオリ」認定品種採用 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 茶園からの窒素負荷低減のための窒素低投入施肥法 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産環境研究所の新設 ○ トマト黄化葉巻病に対する各種殺虫剤の媒介抑制効果 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新系統豚「ヒゴサカエ302」育成公表 ○ 農用馬における人工授精適期の判定技術 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関税込率法に基づき、中国産「ひのみどり」量表の輸入差止め申請 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ニホンナシ「新高」の生育・成熟特性と高品質果実安定生産技術 	
2004 (平16)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 晩生の水稲奨励品種「あきまさり」を選定 ○ イチゴ「熊研い548」一般公募にて「ひのしずく」と命名 ○ 苦味の少ないニガウリF1品種「熊研BP1号」育成 ○ トルコギキョウの覆輪発現安定化のための温度管理 ○ 麦「ミナミノカオリ」「はるしずく」認定品種採用 ○ 水稲「秋音色」、ナス「ヒゴムラサキ」品種登録 ○ DNA鑑定による熊本県育成イチゴ「熊研い548」の品種識別技術 		<ul style="list-style-type: none"> ○ メロンの黄化症(メロン退緑黄化病)を確認 ○ プロジェクト研究「農耕地からの窒素負荷軽減のための合理的施肥技術の確立」 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 褐毛和種種雄牛「菊光丸」の選抜 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 関税込率法に基づき、中国産「ひのみどり」原草の輸入差止め申請 	<ul style="list-style-type: none"> ○ カンキツ「肥のみらい」品種登録出願 ○ カンキツ「肥のあすか」「肥のあかり」「肥のさやか」品種登録 ○ カラタチ台カンキツ「不知火」へのシクシャー及びカラタチの根接ぎが生育・収量・果実品質に及ぼす影響 ○ ニホンナシ「新高」のみつ症発生に及ぼす環境要因 ○ 中晩生モモ「みつ症」の発生要因 ○ 高圧炭酸ガス処理によるクジキゾウムの収穫後の防除 	
2005 (平17)	<ul style="list-style-type: none"> ○ ニガウリF1用品種「KGBP1号」品種登録出願 ○ 「ひのしずく」の夜冷短日処理による早進技術 ○ 露地スナップエンドウの栽培技術 ○ 水稲「あきまさり」奨励品種採用 ○ 大豆「すずおとめ」認定品種採用 ○ イチゴ「熊研い548」品種登録 		<ul style="list-style-type: none"> ○ タバココナジラミバイオタイプQの確認 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 晩刈用いぐさ品種「ひのはるか」育成 ○ 県育成「夕風」品種登録出願及び奨励品種採用 ○ くまもと量表創業500周年の記念大会等の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 普通温州ミカン「肥のみらい」(県オリジナル品種)によるリレー出荷体制の確立 ○ カキ「太秋」の収穫適期 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
○ 夏期高温時のデルフィニウム栽培におけるハウスオープン化とマルチ資材の効果	○ クリの大苗密植栽培による早期成園化		2002	(平14)	○ くまもと食・農ネットワーク設立 ○ 無登録農薬の販売、使用が判明 ○ 県産交雑種牛に「くまもと味彩牛」の名称決定 ○ 「食の安全対策会議」設置 ○ 南阿蘇畜産農業協同組合が日本農業大賞受賞 ○ 学校給食・地産地消フォーラム開催 ○ 県産ヒノヒカリが全国米の食味ランキングで2年連続特A米を獲得 ○ 畳表価格安定制度の創設	○ 食と農の再生プラン ○ イネゲノム解読終了宣言 ○ 農産物の産地偽装、無登録農薬問題が全国的に表面化 ○ 米価14,295円	
○ シリカゲル肥料の育苗箱施用による高冷地「コシヒカリ」の品質及び食味の向上	○ モモ品種「はなよめ」の特性	○ 河内晩柑のシートマルチ栽培による糖度向上 ○ パラフィルムを利用した袋掛けによる「不知火」の果皮障害軽減法	2003	(平15)	○ 農業研究センター外部評価委員会開催 ○ 熊本県地産地消サイト本格運用開始 ○ 農地管理公社と畜産開発公社が統合し、(財)農業公社が発足 ○ 第1回熊本県食の安全対策会議開催、「食の安全110番」設置 ○ 「天草大王」販売開始	○ 食品安全基本法成立 ○ 米価13,820円	○ 日照不足
○ 機械移植に対応したハウレンソウセル成型苗移植技術 ○ 高冷地域における「らくらくベンチ探」を用いたイチゴ高設栽培技術			2004	(平16)	○ 農業公園「カントリーパーク」入園者800万人達成 ○ 第16回全国農業青年交換大会開催(グランメッセ) ○ 県内初のBSE感染牛を確認 ○ 「熊本県バイオマス利活用方針」策定	○ トレーサビリティ法施行 ○ 米穀、政府買入札制となる ○ 米価(落札銘柄平均)16,660円	○ 台風16, 18, 21号
○ 高原地域の夏秋栽培に適した調理用トマト「オスカー」の特性と栽培技術 ○ 阿蘇地域における秋ソバ栽培法		○ 早期水稲後の露地スナップエンドウの栽培技術	2005	(平17)	○ 県食料・農業・農村計画の策定 ○ 県食の安全安心推進条例施行 ○ 「元気人気くまもと農業運動」スタート ○ 「くまもとグリーン農業推進協議会」設立 ○ 農業研究センター、九州東海大学との学術研究交流協定締結	○ 米価(落札銘柄平均)16,048円	○ 台風14号、水稲高温登熟障害

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
2006 (平18)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲中生品種の高温条件下での白未熟粒の発生抑制技術の開発 ○ 小麦「チクゴイズミ」のタンパク質向上のための葉色診断技術 ○ 「ひのみどり識別キット」を用いた「夕風」「ひのはるか」の識別 		<ul style="list-style-type: none"> ○ PP素材0.4mm目合いの防除網でトマト黄化葉巻病防除 ○ シルバーリーフコナジラミの高温耐性とハウス密閉処理の防除効果 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県産ブランド豚肉が「ひごさかえ肥皇」に名称決定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県育成「ひのはるか」品種登録出願及び奨励品種採用 ○ イグサ「夕風」品種登録 ○ 特許「イグサの主要栽培品種識別マーカー」登録 	<ul style="list-style-type: none"> ○ モモのトンネルハウス栽培による収穫の前進化と品質向上 	
2007 (平19)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高温登熟性に優れた水稲「くまさんの力」品種登録出願 ○ 耐暑性野菜栽培マニュアル「暑い夏を乗り切る野菜たち！」作成 ○ トルコギキョウの初期生育に有効で重油消費も削減する温度管理法 ○ ニガウリ「KGBP1号」品種登録 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 空気二重膜ハウスの重油削減効果 ○ タバココナジラミバイオタイプQの発生が県下全域に拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「ヒゴサカエ302」を活用した交雑肉豚生産システムの確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ いぐさ「ひのはるか」品種登録 ○ いぐさ新品種「夕風」の収穫物への着花茎混入削減のための先刈技術の開発 ○ 特許「イグサ品種ひのみどりの識別マーカー」登録 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 渋皮が簡単に向けるクリ「ぼろたん」の普及推進 ○ カンキツ「肥のみらい」品種登録 ○ 本県で育成した珠心胚実生温州ミカンの高品質果実安定生産技術とヒリュウ台利用 ○ 極早生・早生温州ミカンの緑かび病による果実腐敗防止技術 ○ クリの副梢利用苗密植栽培による早期成園化技術 	
2008 (平20)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲-小麦体系での牛ふん堆肥施用技術の開発 ○ 水稲「くまさんの力」奨励品種採用 ○ 水稲「いただき」認定品種採用 ○ 麦「はるしずく」奨励品種採用 <p>○ 夏秋期に収穫できる「阿蘇タカナ系統」を育成</p> <p>○ 熱遮断フィルム被覆技術によるイチゴ「ひのしずく」の花芽分化促進技術の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ トルコギキョウの電照栽培技術の確立 ○ ペンステモン咲きキンギョソウの電照栽培による年内出荷技術の確立 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 直播栽培水稲におけるスクミリンゴガイの防除体系確立 ○ 箱施薬剤と水和剤の育苗箱同時処理によるイネ主要害虫の防除技術 ○ メロンおよびキュウリ退緑黄化病の原因を特定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 乳牛の乾乳期短縮による飼養管理の省力化技術の開発 ○ 特許「ウシの軟骨異形成性矮小体軀症の遺伝子診断法」登録 ○ 特許「深層曝気層を用いた有機性汚水の液肥化処理方法」登録 		<ul style="list-style-type: none"> ○ スモモ「ハニーローザ」の高品質果実の安定生産技術の開発 ○ 極早生温州ミカン「豊福早生」における高糖度果実生産のための水分ストレスと樹体反応との関係 <p>○ ニホンナシ「幸水」のトンネル栽培下におけるせん定指標</p> <p>○ マンゼブ水和剤感受性低下ミカンサビダニに対する有効薬剤と防除対策</p>	
2009 (平21)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 湿地性カラー「熊育FC01」「熊育FC02」を育成 ○ 昆虫病原性糸状菌(緑きょう病菌)の発芽促進物質の発見と効率的生物検定法の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大型ハンマーナイフモアを用いた省力的な茶園台切り更新法の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 雨水を利用した施設園芸のかん水量確保技術の開発 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 褐毛和種雄牛「菊光浦」の選抜 ○ 黒毛和種雄牛「平茂幸」の選抜 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小麦との輪作体系導入によるいぐさの収量品質向上技術の公表 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 樹冠表層摘果、シートマルチ、エチクロゼンによる早生温州ミカンの果実品質向上効果 ○ 田浦地区における施設栽培「不知火」のホウ素障害の発生原因 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
○ 特別栽培米「阿蘇コンヒカリ」の化学合成農薬・化学肥料を半減できる	○ モモのトンネルハウス栽培による収穫の前進化と品質向上		2006	(平18)	○ 県産品のブランド化進む(いちご「ひのしずく」、肉用鶏「天草大王」の高評価) ○ ポジティブリスト施行に伴い、生産から流通に至る食品検査スタート ○ 県立農業大学校が専修学校資格を取得 ○ 全国カンキツ研究大会開催 ○ 原油価格高騰に伴い県庁内連絡会議設置 ○ 球磨郡相良村で保護されたクマタカから「H5N1亜型」鳥インフルエンザウイルスが確認 ○ 農業粗生産額3,000億円切る	○ 品目横断的経営安定対策の開始 ○ ポジティブリスト制の施行 ○ 宮崎県、岡山県で鳥インフルエンザ発生 ○ 米価(落札銘柄平均)15,731円	○ 日照不足、台風10,13号、水稲充実不足
○ 夏そば品種「なつみ」の特性 ○ 高冷地域におけるイチゴ「ひのしずく」の空気二重膜ハウスの重油消費削減効果		○ ミニトマトのナス台木利用技術	2007	(平19)	○ 県農業試験研究推進構想の策定 ○ 熊本の農畜産物の新ブランド投入と販路拡大へのチャレンジ ・ 県育成の温州ミカン「肥のあかり」初出荷と知事によるトップセールス実施 ・ 新ブランド豚肉「ひごさかえ肥皇」の販売開始 ・ 香港へ牛乳の本格輸出開始。中国にもテスト輸出開始 ○ 工業技術センター、食品加工研究所、計量検定所が統合され「産業技術センター」へ	○ 米価(落札銘柄平均)15,075円	○ 記録的猛暑 ○ 水稲高温登熟障害
○ 機能性成分に注目したソバの栽培法			2008	(平20)	○ くまもと地産地消推進県民条例施行 ○ 耕作放棄地対策の推進強化 ○ 農業研究センター20周年記念式典 ○ 農林水産業における燃油・資材・飼料等の価格高騰を受け、対策会議設置。技術対策マニュアルの策定をはじめとした各種支援等を実施。 ○ 第62回全国お茶まつり熊本大会開催 ○ 「くまもとあか牛」の愛称、「阿蘇王」に決定 ○ 知事トップセールス「熊本みかん」を東京大田市場地でPR ○ 香港で農林水産物トップセールス ○ 西原公共育成牧場、球磨公共育成牧場廃止	○ 灯油・飼料価格の高騰 ○ 米価(落札銘柄平均)16,099円	○ 日照不足
○ 在来系統「みさを大豆」の系統選抜と高冷地における播種適期 ○ 阿蘇地域における「ひのしずく」の年内収量確保と燃油削減技術	○ 大型ハンマーナイフモアを用いた省力的な茶園台切り更新法の開発	○ スナップエンドウの促成栽培における長期安定生産技術	2009	(平21)		○ 花粉交配用ミツバチの不足が問題化 ○ 米価(落札銘柄平均)15,610円	

主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)

年次	主な業績(試験研究機関設立前は各部門に関連する動き)						
	農産園芸部門	茶業部門	生産環境部門	畜産部門	い業部門	果樹部門	蚕業部門
2010 (平22)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水稲「ミズホチカラ」「北陸193号」認定品種採用 ○ 水稲「くまさんの力」品種登録 ○ 水稲「わさもん」を品種登録出願 ○ イチゴ「熊本VS02E」を品種登録出願 ○ アールスメロン「熊本VM03」を品種登録出願 ○ カラー「熊本FC01」「熊本FC02」を品種登録出願 		<ul style="list-style-type: none"> ○ メロン退緑黄化病の効果的な防除体系の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特許「ウシ個体における枝肉重量を評価する遺伝子マーカー及びそれをを用いた枝肉重量評価方法」登録 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 極早生温州ミカン「肥のあかり」のシートマルチ栽培における初期着果安定と適正着果量 ○ 晩生モモの果肉異常発生要因の解明と回避技術の開発 ○ カンキツ「熊本EC10」を品種登録出願 	

			年次		社会情勢等		
高原農業部門	球磨農業部門	天草農業部門			県のできごと	国のできごと	県下の気象・栽培状況
			2010	(平22)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 熊本県食料・農業・農村計画の策定 ○ 「熊本農業経営塾」開講 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮崎県で口蹄疫発生 ○ 愛知県、宮崎県、鹿児島県で鳥インフルエンザ発生 	